結果の概要

この報告書に掲載している数値は、四捨五入のため、
内訳合計が総数に合わないことがある。

1．糖尿病の実態

平成14年度糖尿病実態調査（以下「今回の調査」という。）では、その解析にあたって、平成14年度糖尿病実態調査質問票（以下「質問票」という。）に回答した人5,803名のうち有効回答が得られた5,792名を解析対象とした。ただし、糖尿病有病者の解析については、その中で血液検査においてヘモグロビンA1cの測定値がある人5,346名（調査客体5,792名における92.3%）を対象とした。以下、ヘモグロビンA1cの測定値がある人の性・年齢階級別の構成を示す（表1）。

表1　糖尿病有者の解析における対象者

（人）

	総　数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
男女計	5,346	398	713	767	1,123	1,209	1,136
男　性	2,150	145	257	295	429	546	478
女　性	3,196	253	456	472	694	663	658

今回の調査において、

①「糖尿病が強く疑われる人」とは、ヘモグロビンA1cの値が6.1%以上、または、質問票で「現在糖尿病の治療を受けている」と答えた人である。

②「糖尿病の可能性を否定できない人」とは、ヘモグロビンA1cの値が5.6%以上6.1%未満で、①以外の人である。

③「今回の調査で正常範囲の人」とは、上記①、②以外の人である。

1－1．糖尿病有病者の状況

今回の調査で、「糖尿病が強く疑われる人」は男性の12.8%、女性の6.5%であった。また、「糖尿病の可能性を否定できない人」は男性の10.0%、女性の11.0%であった。平成9年度糖尿病実態調査（以下「前回の調査」という。）の結果と比較して、性・年齢階級別に見ると、「糖尿病が強く疑われる人」の割合は、男性では60歳以上で、女性では60歳代で高くなっていたが、男女とも60歳未満では低くなっていた。また、「糖尿病の可能性を否定できない人」の割合は、男性において50歳以上で高くなり、50歳未満は低くなっていた。女性においては、ほぼ全年齢層で高くなっていた（表2）。

男女とも年齢が高くなるとともに、「糖尿病が強く疑われる人」と「糖尿病の可能性を否定できない人」を合わせた割合は高くなり、男性の70歳以上では37.4%であった（図1）。

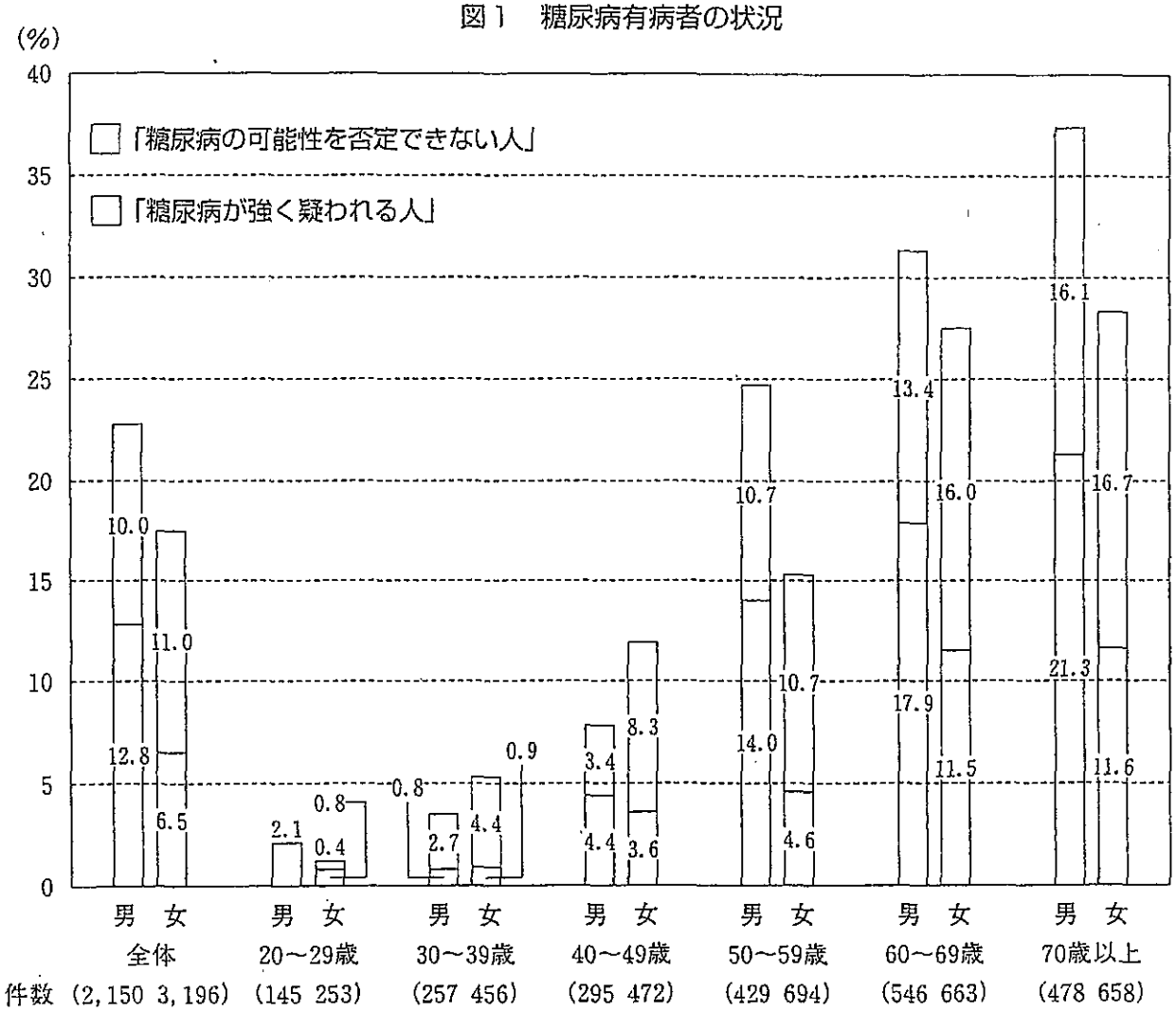
表2「糖尿病が強く疑われる人」および「糖尿病の可能性を否定できない人」の割合

男性		全　体	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
平成14年	対象件数	2,150人	145人	257人	295人	429人	546人	478人
	糖尿病が強く疑われる人	12.8%	0%	0.8%	4.4%	14.0%	17.9%	21.3%
	糖尿病の可能性を否定できない人	10.0%	2.1%	2.7%	3.4%	10.7%	13.4%	16.1%
平成9年	対象件数	2,403人	234人	317人	443人	486人	532人	391人
	糖尿病が強く疑われる人	9.9%	0.9%	1.6%	5.4%	14.2%	17.5%	11.3%
	糖尿病の可能性を否定できない人	8.0%	0.4%	4.1%	6.8%	10.1%	10.3%	11.5%

女性		全　体	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
平成14年	対象件数	3,196人	253人	456人	472人	694人	663人	658人
	糖尿病が強く疑われる人	6.5%	0.8%	0.9%	3.6%	4.6%	11.5%	11.6%
	糖尿病の可能性を否定できない人	11.0%	0.4%	4.4%	8.3%	10.7%	16.0%	16.7%
平成9年	対象件数	3,656人	423人	553人	703人	761人	661人	555人
	糖尿病が強く疑われる人	7.1%	0.9%	1.6%	5.3%	7.1%	10.6%	15.5%
	糖尿病の可能性を否定できない人	7.9%	1.4%	4.2%	7.7%	10.4%	8.8%	12.4%

注）ヘモグロビンA1cの測定値がある人で解析

図1　糖尿病有病者の状況



注）ヘモグロビンA1cの測定値がある人で解析

１－２．糖尿病有病者の推計

今回の調査の結果に平成14年10月１日のわが国の推計人口を乗じて推計したところ、「糖尿病が強く疑われる人」は約740万人、「糖尿病の可能性を否定できない人」を合わせると約1,620万人となった（表３）。

（参考：平成９年度糖尿病実態調査　「糖尿病が強く疑われる人」約690万人、「糖尿病の可能性を否定できない人」約680万人）

表３　糖尿病有病者の推計

	平成14年	平成９年
「糖尿病が強く疑われる人」	約740万人	約690万人
「糖尿病の可能性を否定できない人」	約880万人	約680万人
「糖尿病が強く疑われる人」と 「糖尿病の可能性を否定できない人」の合計	約1,620万人	約1,370万人

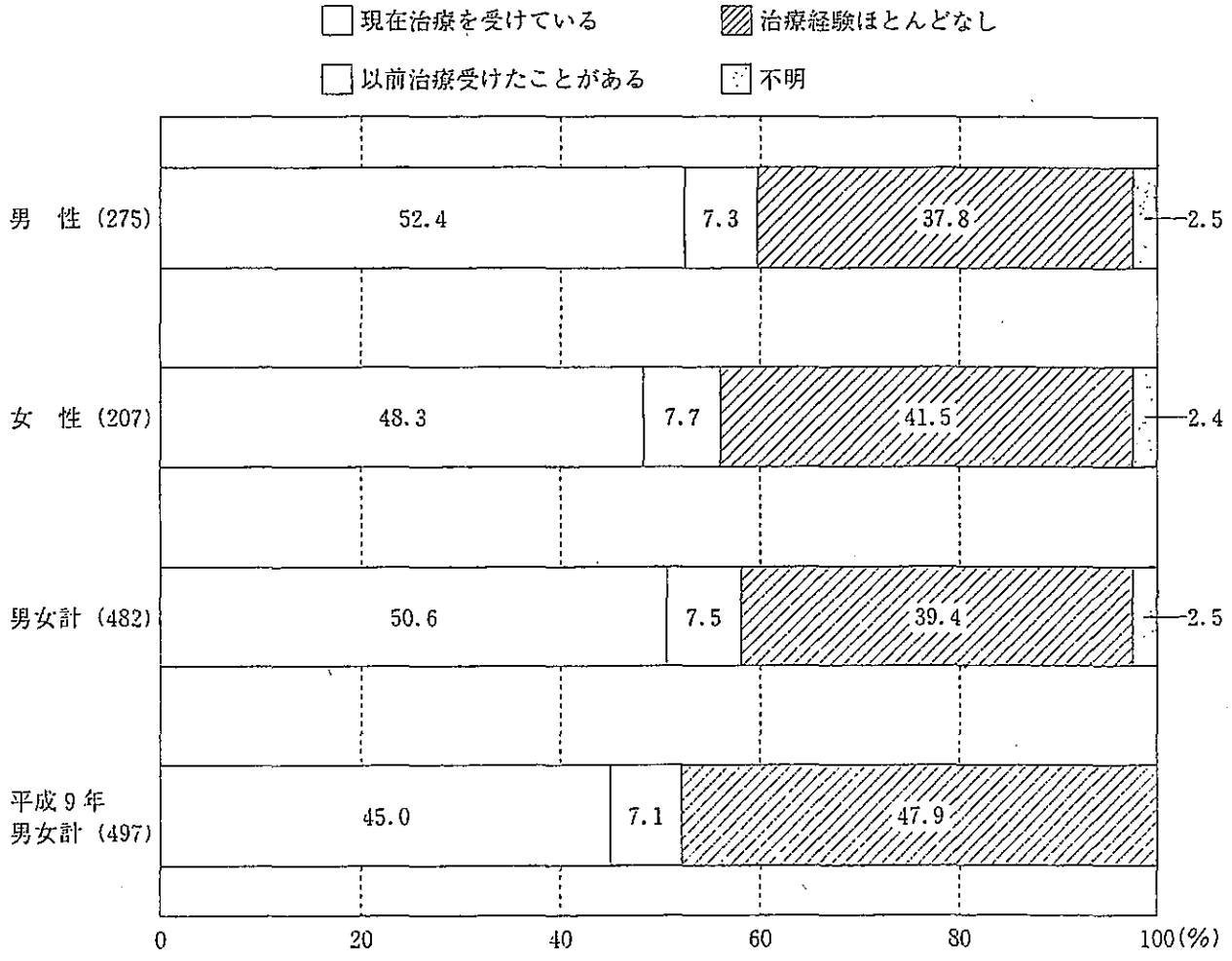
注）平成14年は、平成14年10月１日のわが国の推計人口を用いて算出している。
　　平成９年は、平成８年10月１日のわが国の推計人口を用いて算出している。

2．糖尿病有病者の背景

2－1．「糖尿病が強く疑われる人」における治療状況

「糖尿病が強く疑われる人」の糖尿病の治療の状況は図2に示すとおりである。「現在治療を受けている」と答えた人は、男性で52.4%、女性で48.3%、男女計で50.6%であった。前回の調査の結果と比較すると、「現在治療を受けている」と答えた人の割合が高かった。

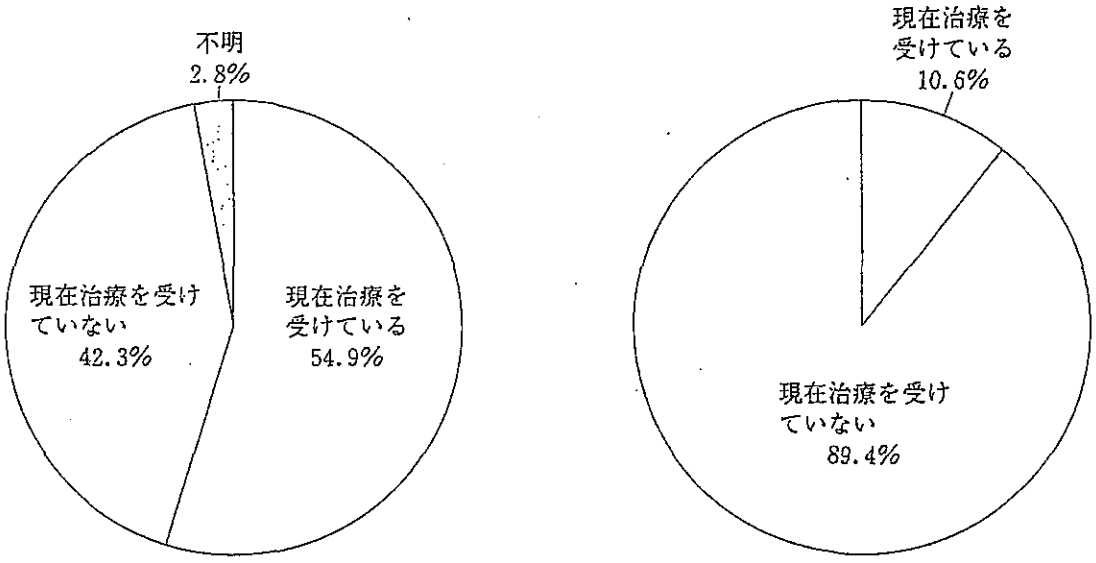
図2「糖尿病が強く疑われる人」における治療の状況



2－2．「糖尿病が強く疑われる人」における糖尿病の検査の受診状況と治療状況

「糖尿病が強く疑われる人」の健康診断などにおける糖尿病の検査の受診状況別、治療の状況は図3に示すとおりである。「糖尿病が強く疑われる人」（482名）において、「健康診断などで糖尿病の検査を受けたことがある人」（435名）の半数以上は治療に結びついていたが、「健康診断などで糖尿病の検査を受けたことがない人」（47名）では、89.4%が治療を受けていなかった。

図3「糖尿病が強く疑われる人」における糖尿病の検査の受診の有無別、治療の状況



糖尿病の検査を受けたことがある人
（435件）

糖尿病の検査を受けたことがない人
（47件）

2－3．「糖尿病が強く疑われる人」における糖尿病合併症の状況

糖尿病の状態が続くと、神経障害(手足がしびれる、感覚が鈍くなる)、糖尿病性網膜症(眼底に出血がある、視力の低下など)、糖尿病性腎症(尿たんぱくが出ているなど)、足壊疽(治りにくい潰瘍も含める) などの合併症が出現する。

「糖尿病が強く疑われる人」のうち、「糖尿病の治療を現在受けている」と答えた人、および「今回の調査でヘモグロビンA1cの値が6.1%以上であるが、現在治療を受けていない」と答えた人における合併症の状況は、表4、図4に示すとおりである。

「糖尿病が強く疑われ、現在治療を受けている人」において、「合併症がある」と答えた人の内訳は、神経障害15.6%、網膜症13.1%、腎症15.2%、足壊疽1.6%であった。

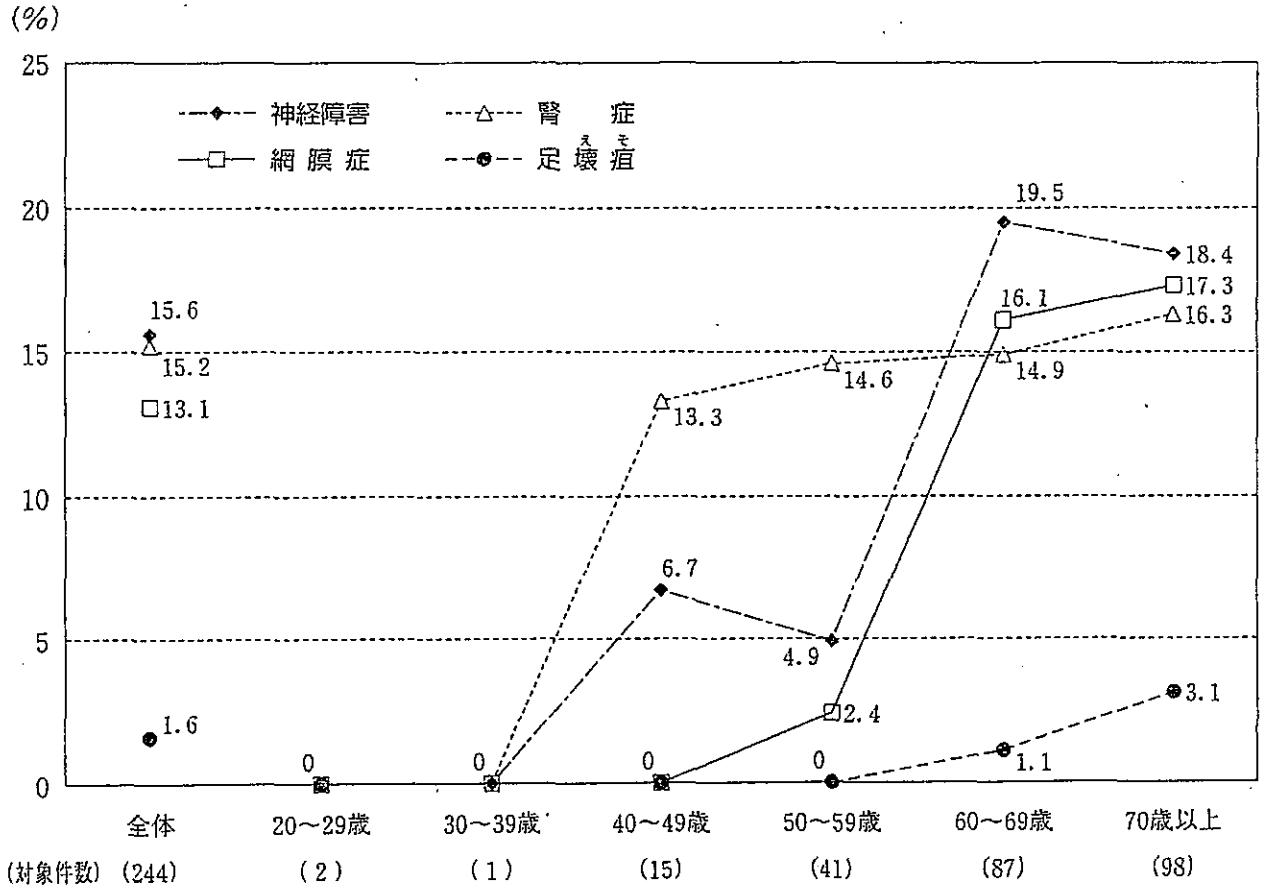
また、「現在治療を受けていない」と答えた人の中にも「これらの合併症がある」と答えた人がいた。

表4「糖尿病が強く疑われる人」における治療状況別、糖尿病合併症の状況

		神経障害	網膜症	腎症	足壊疽
現在治療を受けている人 (244件)	%	15.6	13.1	15.2	1.6
	件数	38	32	37	4
現在治療を受けていない人 (226件)	%	2.7	0	3.1	0
	件数	6	－	7	－

注)「－」：0件

図4「糖尿病が強く疑われ、現在治療を受けている人」における糖尿病合併症の状況



3．糖尿病の予防や治療に関する情報源と糖尿病に関する知識

3－1．糖尿病の予防や治療に関する情報源

「糖尿病の予防や治療に関する情報源」を何から得ているかと尋ねたところ（複数回答）、情報源として多くあげられたものは、男性では「テレビ・ラジオ」（63.7%）、「新聞」（33.0%）、「病院・診療所」（25.8%）であり、女性では「テレビ・ラジオ」（74.1%）、「新聞」（35.9%）、「雑誌・本」（33.1%）であった（表5）。

情報源をマスメディア等と医療機関等に分けると、マスメディア等に関して、いずれの年齢階級においても男女ともに「テレビ・ラジオ」と回答した人が最も多かった。また、男性の40歳以上では「新聞」と答えた人の割合が高く、女性の20～40歳代は「雑誌・本」、50歳以上では「新聞」と答えた人の割合が高かった（図5）。医療機関等に関して、男女ともに年齢が上がるにしたがって、「病院・診療所」と答える人の割合が高くなる傾向が見られた（図6）。

表5　糖尿病の予防や治療に関する情報源

（複数回答）

	男性 2,358人	女性 3,404人
テレビ・ラジオ	63.7%	74.1%
新聞	33.0%	35.9%
雑誌・本	23.8%	33.1%
友人・知人	24.8%	31.3%
病院・診療所（健診・人間ドックを除く）	25.8%	20.8%
家族	18.2%	23.1%
健診・人間ドック	25.2%	16.7%
職場（健康教室、講習会、冊子等）	12.1%	7.5%
保健所・保健センター	6.8%	8.4%
インターネット	2.4%	1.3%
学校（授業、課外活動等）	1.1%	1.4%
地域のボランティアグループ等	0.6%	0.7%
その他	1.0%	1.4%
特にない	11.1%	7.4%

図５－１　糖尿病の予防や治療に関する情報源(マスメディア等) ―男性―

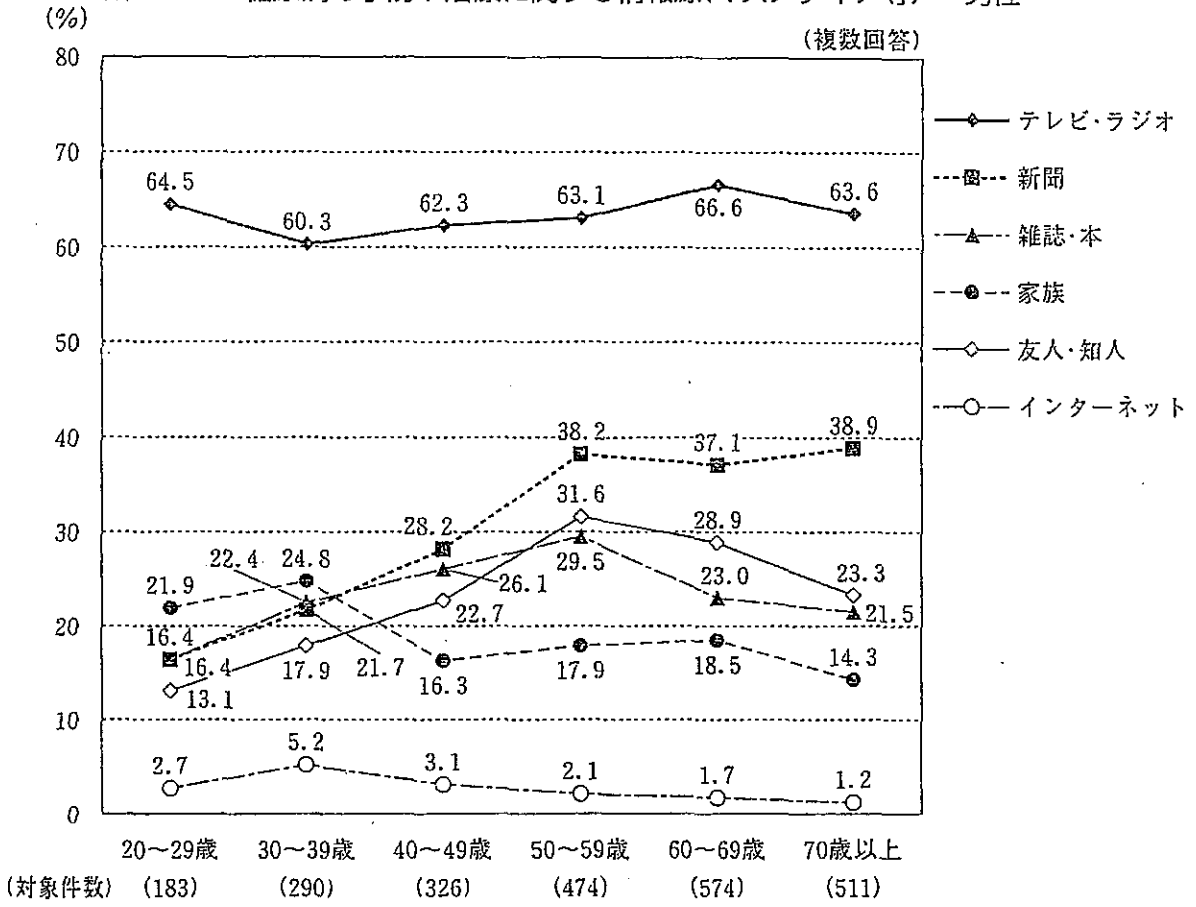
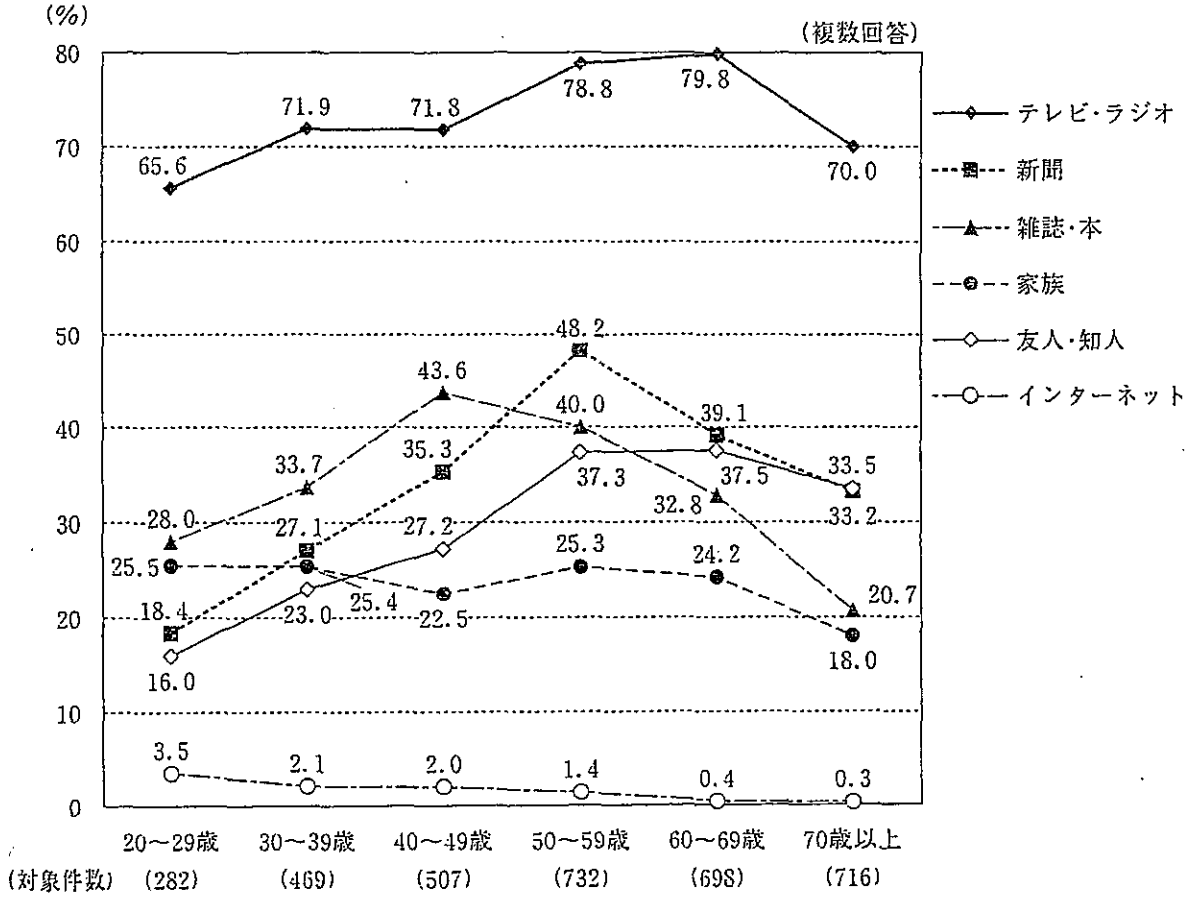


図５－２　糖尿病の予防や治療に関する情報源(マスメディア等) ―女性―



3－2．糖尿病に関する知識

糖尿病という病気に関する事項について、その正誤について尋ねた。各事項における正答率はそれぞれ、「正しい食生活と運動習慣は、糖尿病の予防に効果がある」93.8%、「糖尿病になっても、自覚症状がないことが多い」66.1%、「血のつながった家族に糖尿病の人がいると、自分も糖尿病になりやすい」63.6%、「糖尿病の人には、血液中のコレステロールや中性脂肪が高い人が多い」60.4%、「太っていると、糖尿病になりやすい」57.9%、「糖尿病の人は、傷が治りにくい」49.8%、「軽い糖尿病の人でも、狭心症や心筋梗塞などの心臓病になりやすい」46.4%、「糖尿病の人には、血圧の高い人が多い」40.5%であった（図7）。

また、「太っていると、糖尿病になりやすい」という記述について、「間違っている」と答えた人が24.0%であった（表6）。

図7　糖尿病に関する項目の正答率

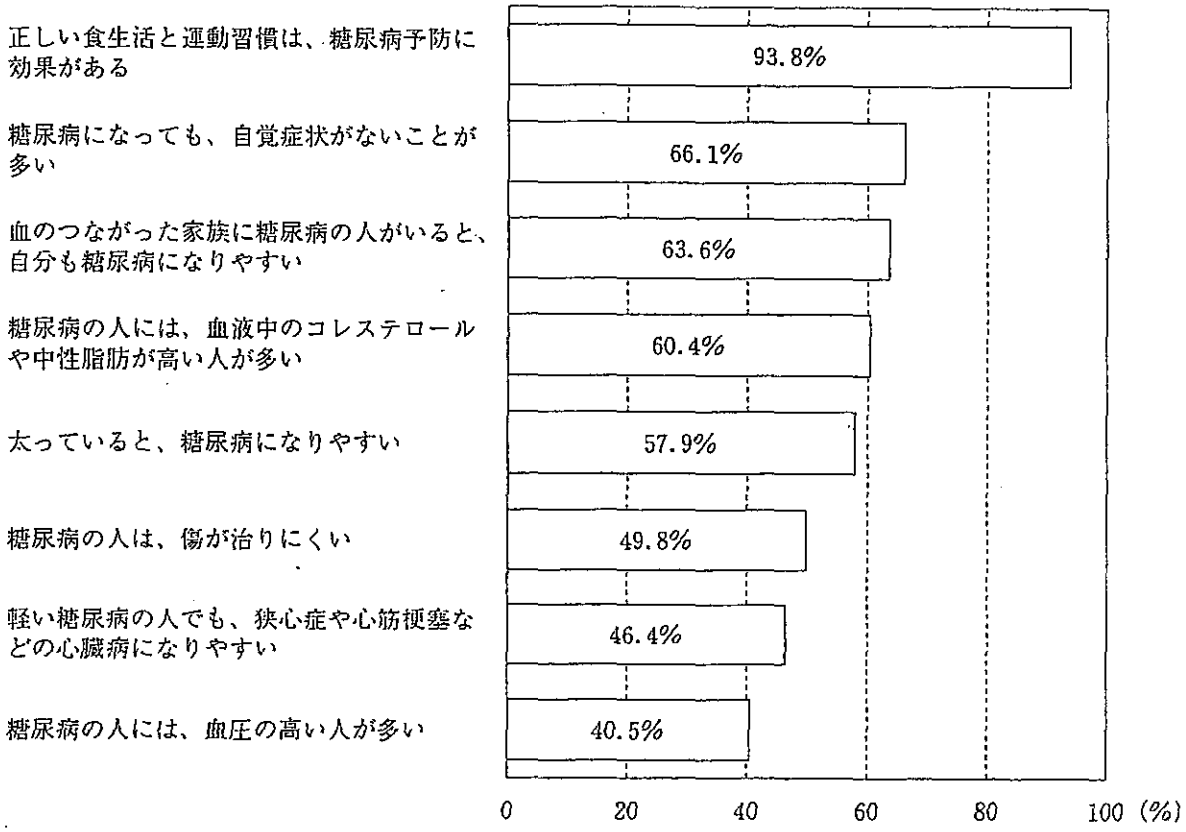


表6　糖尿病に関する知識の状況

	正しい	間違っている	わからない
正しい食生活と運動習慣は、糖尿病予防に効果がある	93.8%	0.4%	5.8%
糖尿病になっても、自覚症状がないことが多い	66.1%	11.7%	22.2%
血のつながった家族に糖尿病の人がいると、自分も糖尿病になりやすい	63.6%	15.5%	21.0%
糖尿病の人には、血液中のコレステロールや中性脂肪が高い人が多い	60.4%	8.6%	31.1%
太っていると、糖尿病になりやすい	57.9%	24.0%	18.1%
糖尿病の人は、傷が治りにくい	49.8%	11.1%	39.1%
軽い糖尿病の人でも、狭心症や心筋梗塞などの心臓病になりやすい	46.4%	7.5%	46.1%
糖尿病の人には、血圧の高い人が多い	40.5%	18.5%	41.1%

4．近隣地域の施設等の認知度

4－1．近隣地域における食生活を相談する場所および運動を実施する場所の認知状況

自分の住んでいる近隣地域に「食生活について相談できる適当な場所（保健所・保健センター、病院・診療所など）」および「運動を行うための適当な場所（体育館、スポーツクラブ、ウォーキング・ジョギングのためのコースなど）」を知っているか尋ねた結果は図８、図９に示すとおりである。

「食生活について相談できる適当な場所」を知っていると答えた人の割合は、男性で64.4%、女性で72.0%であった。また、「運動を行うための適当な場所」を知っていると答えた人の割合は、男性で80.8%、女性で81.1%であった。「食生活について相談できる適当な場所」を知っていると答えた20歳代および30歳代の男性の割合は、他の年齢階級と比較し低かった。

図８　食生活について相談できる適当な場所を知っている人の割合

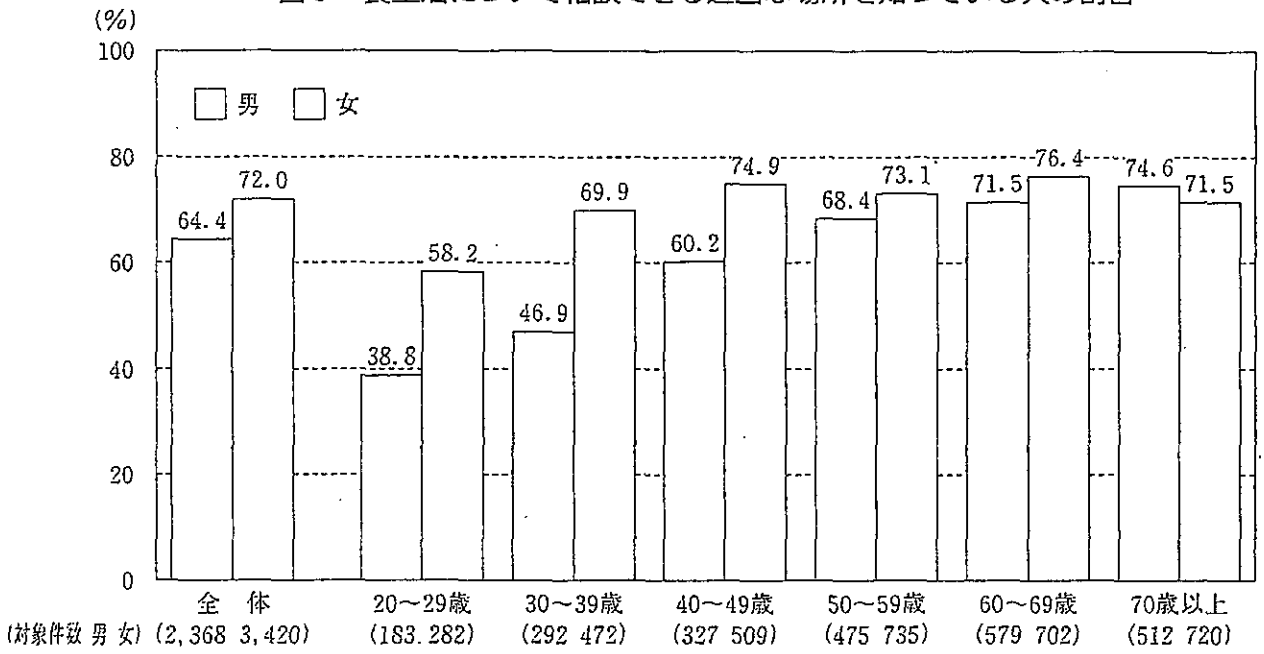
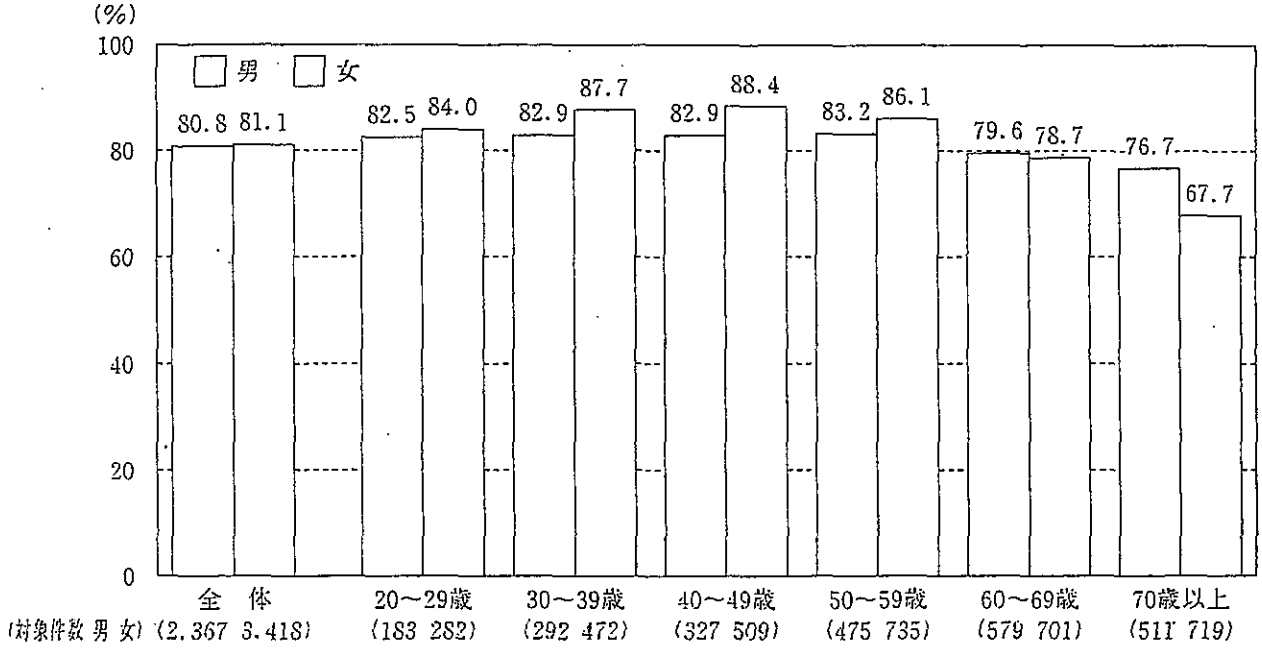


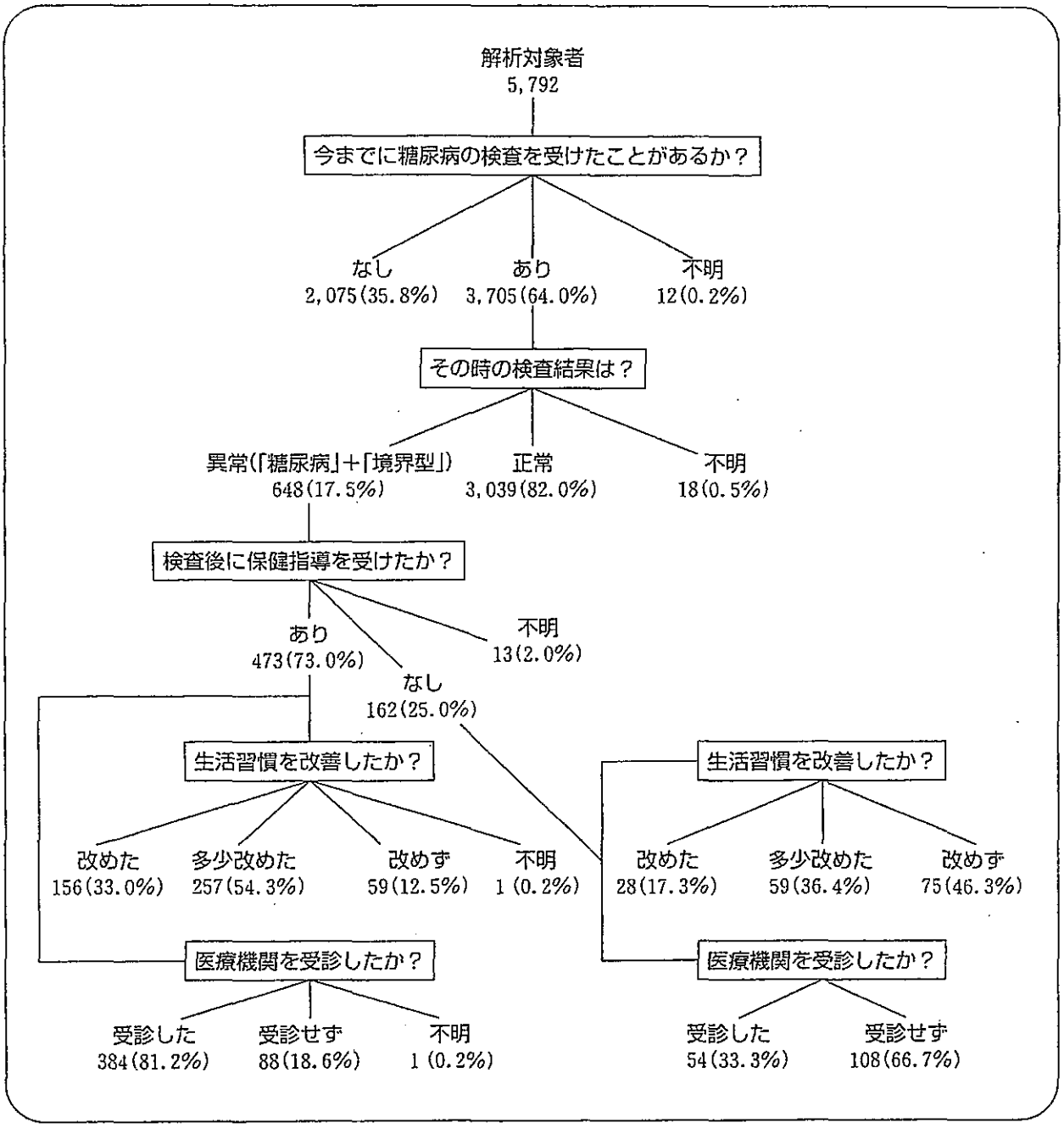
図９　運動を行うための適当な場所を知っている人の割合



5．糖尿病の検査と保健指導

今回の調査の解析対象者5,792人が回答した質問票の中で、健康診断などにおける糖尿病の検査と保健指導の状況について尋ねた結果をまとめた（図10）。「どのような機会に糖尿病の検査を受けたか」について、「病院・診療所」には糖尿病の疑いで受診した場合は含まれていない。

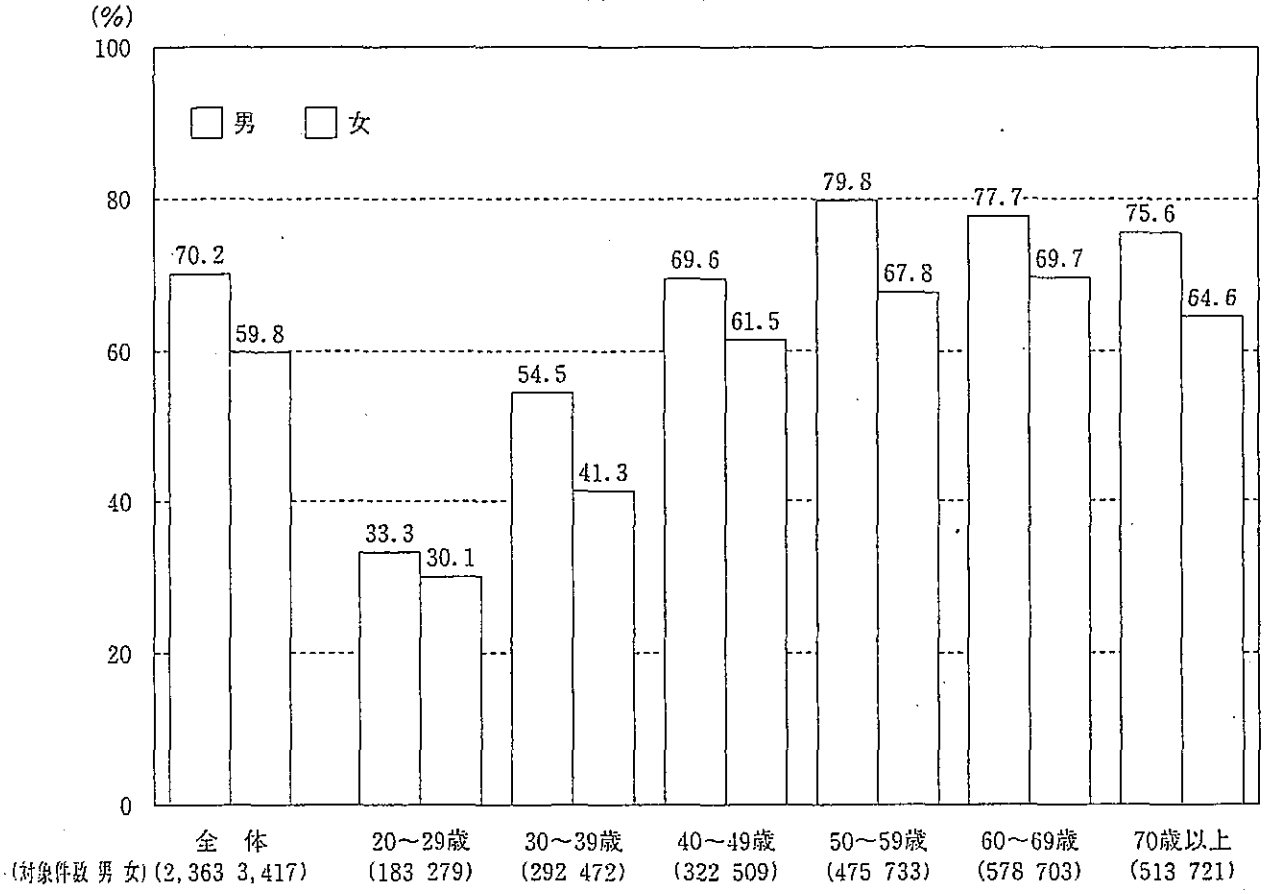
図10　糖尿病の検査と保健指導



5－1．糖尿病の検査の受診状況

「これまでに健康診断などで糖尿病の検査を受けたことがある」と答えた人の割合は図11に示すとおりである。男性では70.2%、女性では59.8%が「これまでに健康診断などで糖尿病の検査を受けたことがある」と答えた。性・年齢階級別に見ると、いずれの年齢階級においても、男性に比べて女性の受診者の割合が低かった。

図11　糖尿病の検査の受診者の割合



5－2．糖尿病の検査の受診機会

「これまでに健康診断などで糖尿病の検査を受けたことがある」と答えた人において糖尿病の検査の受診機会(複数回答)は図12に示すとおりである。男性では「職場における健診」と答えた人の割合が最も高く(49.8%)、女性では「住民健診」と答えた人の割合が最も高かった(53.7%)。

性・年齢階級別に見ると男性では50歳代まで、女性では40歳代までは「職場における健診」の割合が高かった。男女とも年齢が高くなるとともに、「住民健診」の割合が高くなっていた。

図12－1　糖尿病の検査の受診機会―男女計―

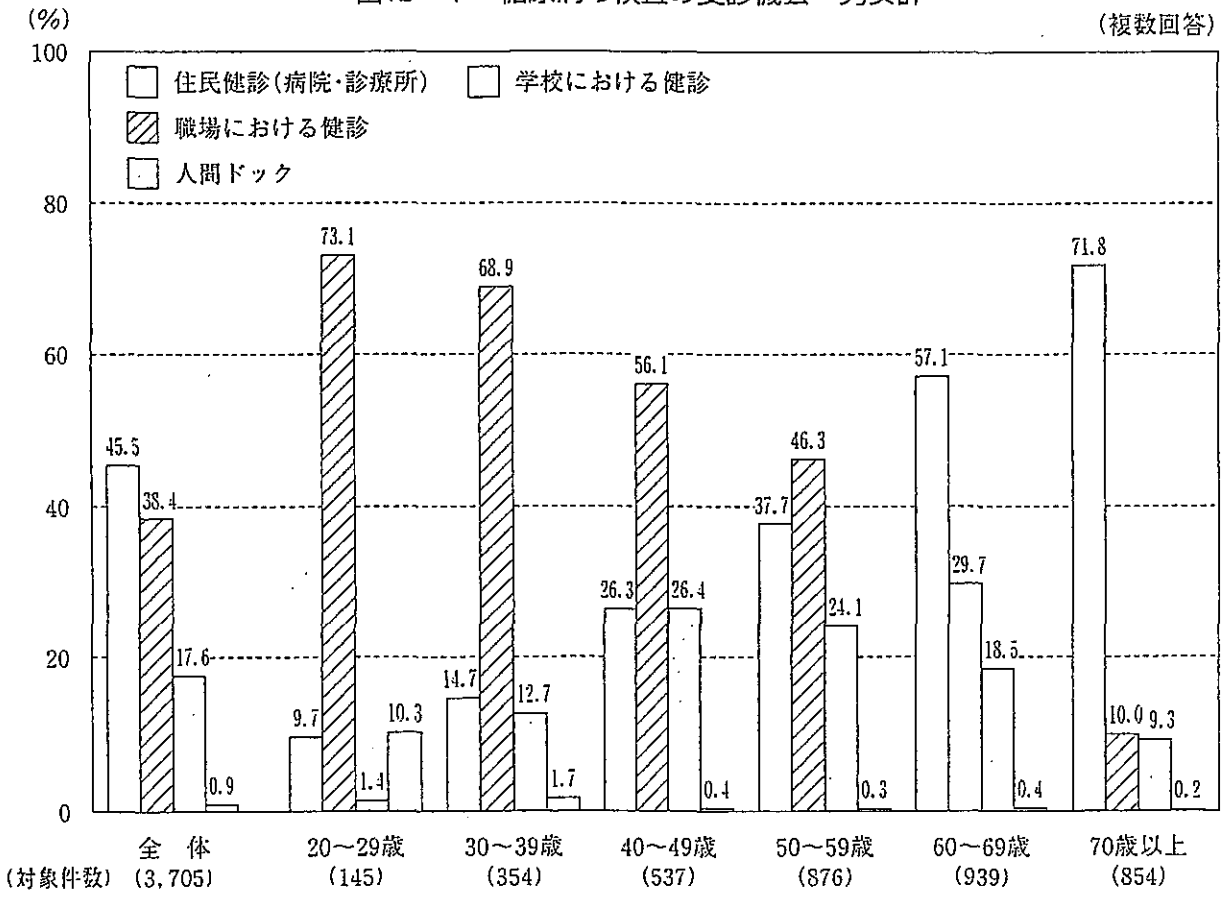


図12－2　糖尿病の検査の受診機会―男性―

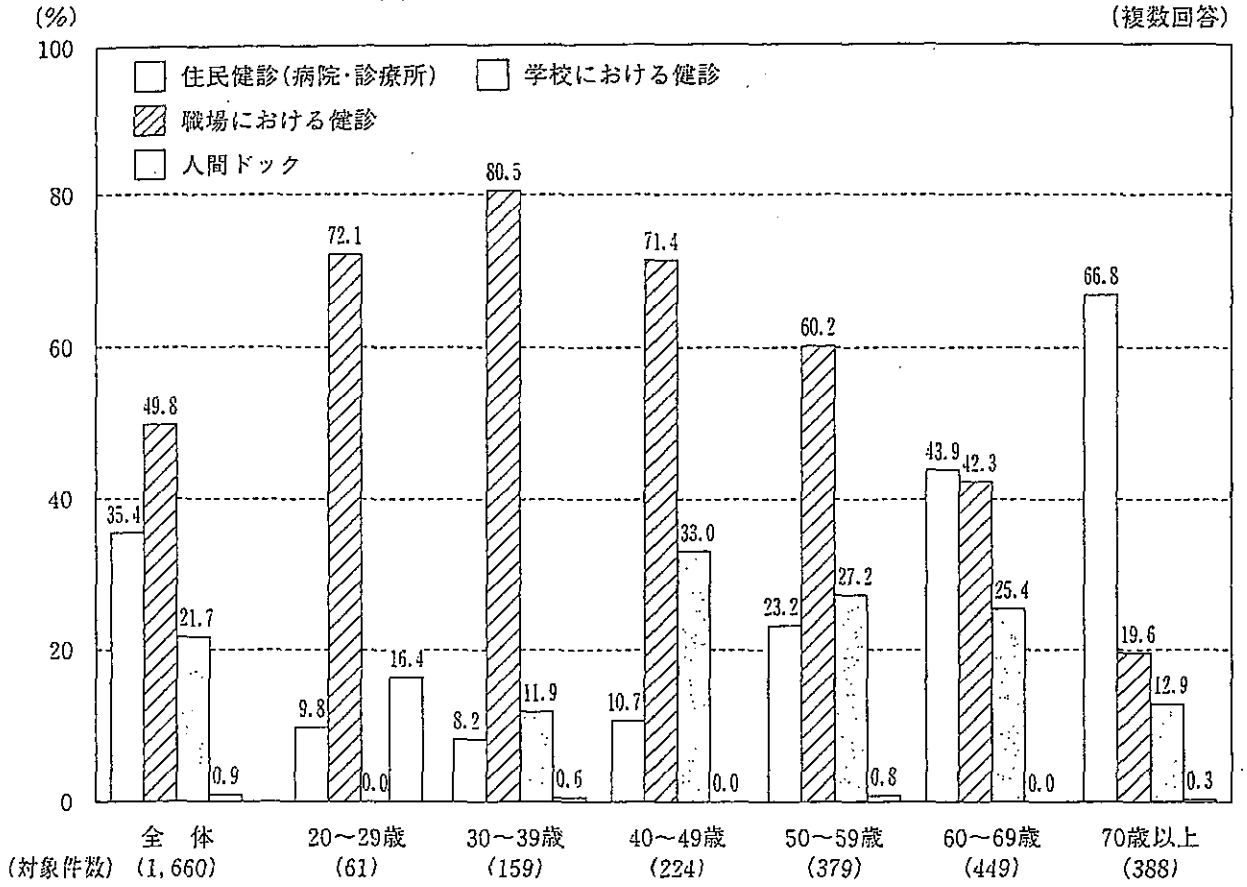
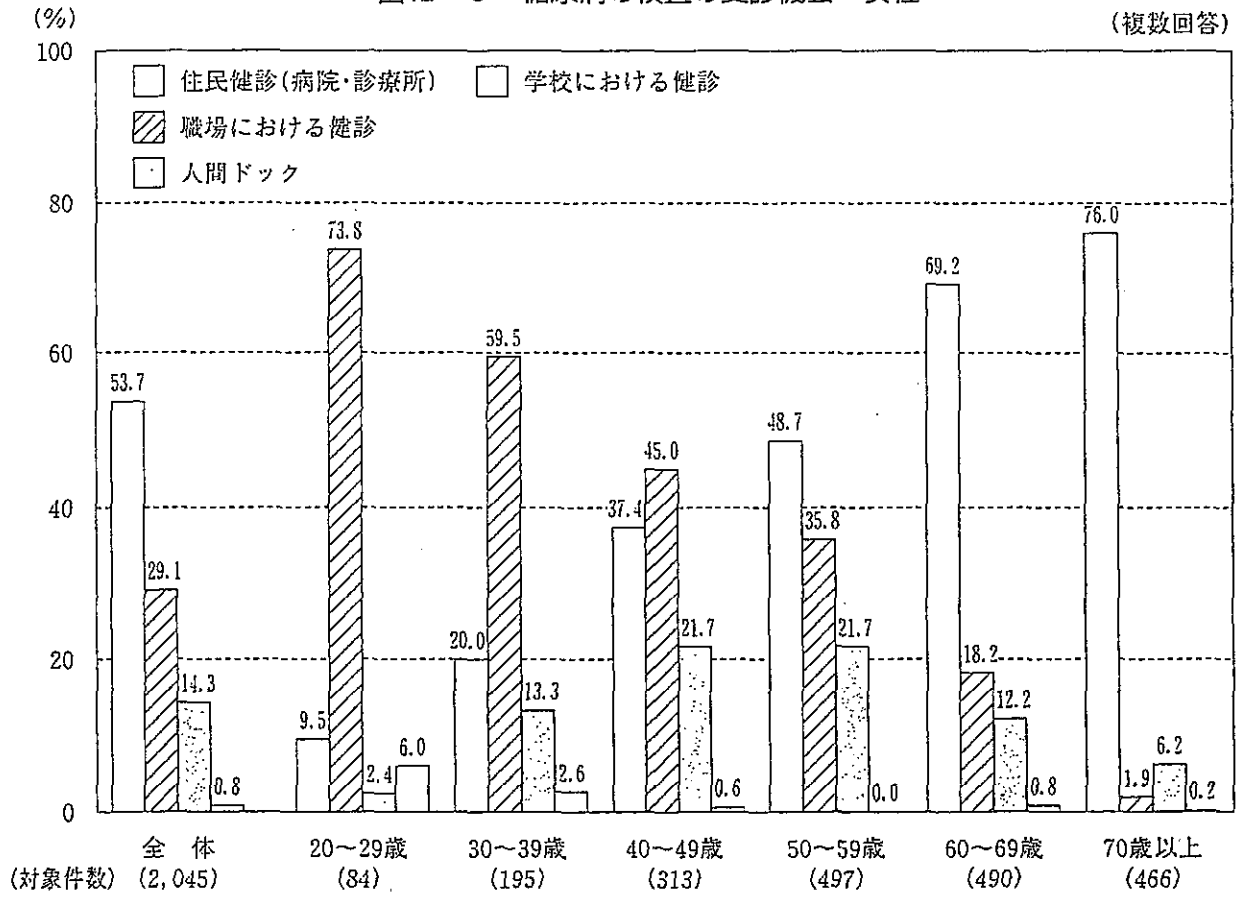


図12－3　糖尿病の検査の受診機会―女性―



5－3．糖尿病の検査結果の状況

「これまでに健康診断などで糖尿病の検査を受けたことがある」と答えた人のうち、その検査の結果で、「糖尿病である」（「糖尿病」）と言われた人、「境界型である」、「糖尿病の気がある」、「糖尿病になりかけている」、「血糖値が高い」など（「境界型」）と言われた人の割合は図13に示すとおりである。「異常を指摘された人」とは、「糖尿病」または「境界型」と言われた人である。

「糖尿病の検査を受けたことがある人」のうち、男性の24.7%、女性の11.8%が「糖尿病」または「境界型」と指摘されていた。

また、前回の調査の結果と比較すると、男性の40歳以上では「糖尿病」または「境界型」と指摘されている人の割合が高くなっていた（図14）。

図13　糖尿病の検査において異常を指摘された人の割合

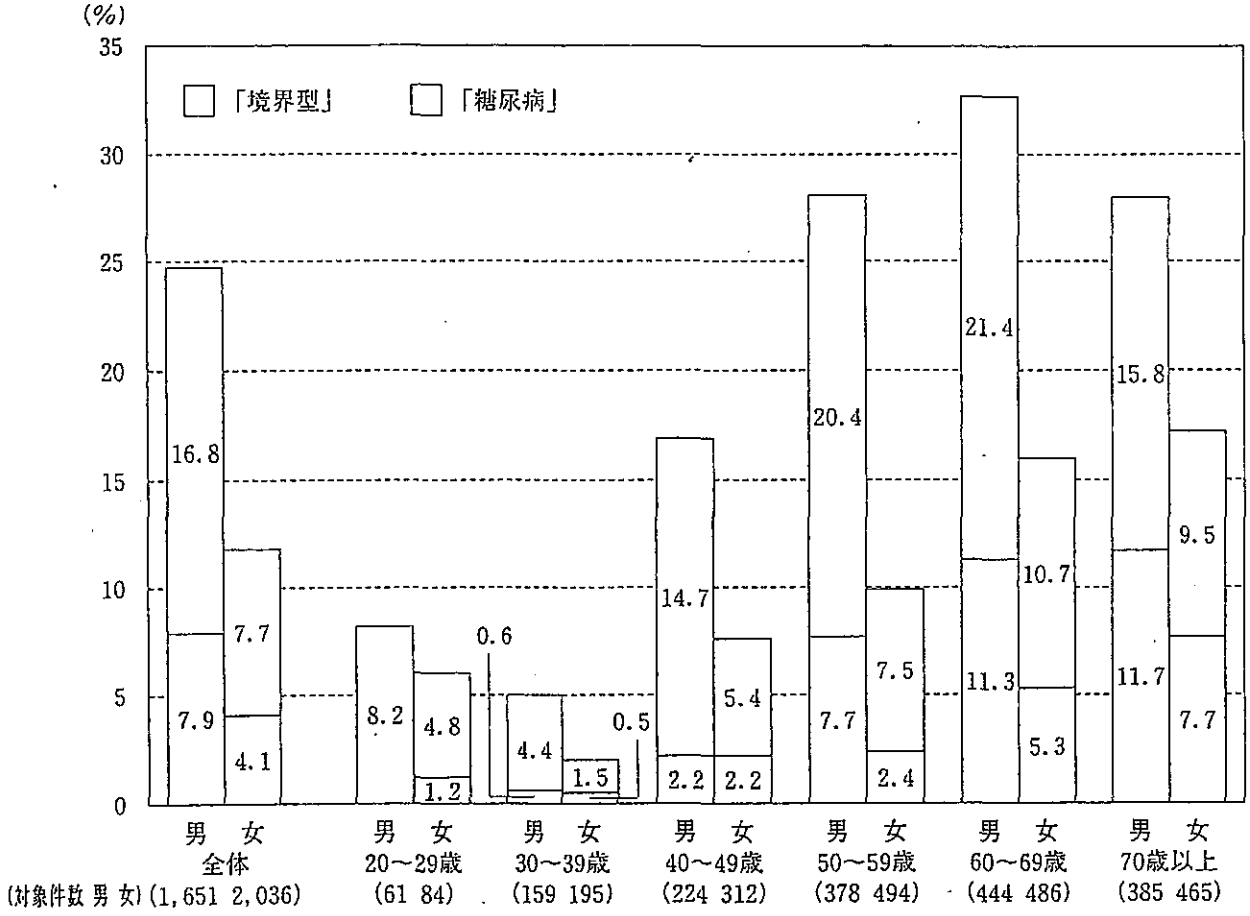


図14－1　糖尿病の検査において異常を指摘された人の割合（前回の調査との比較）―男性―

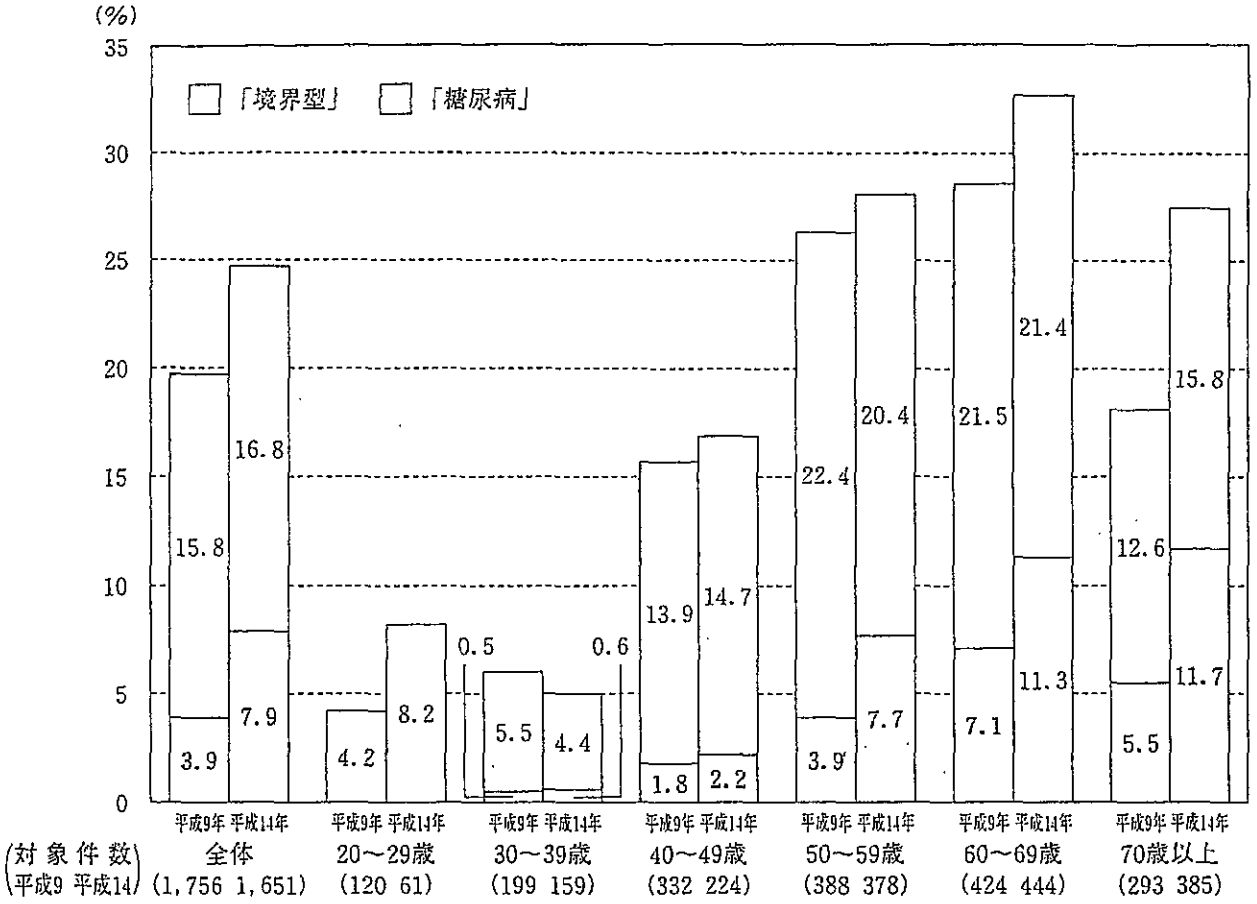
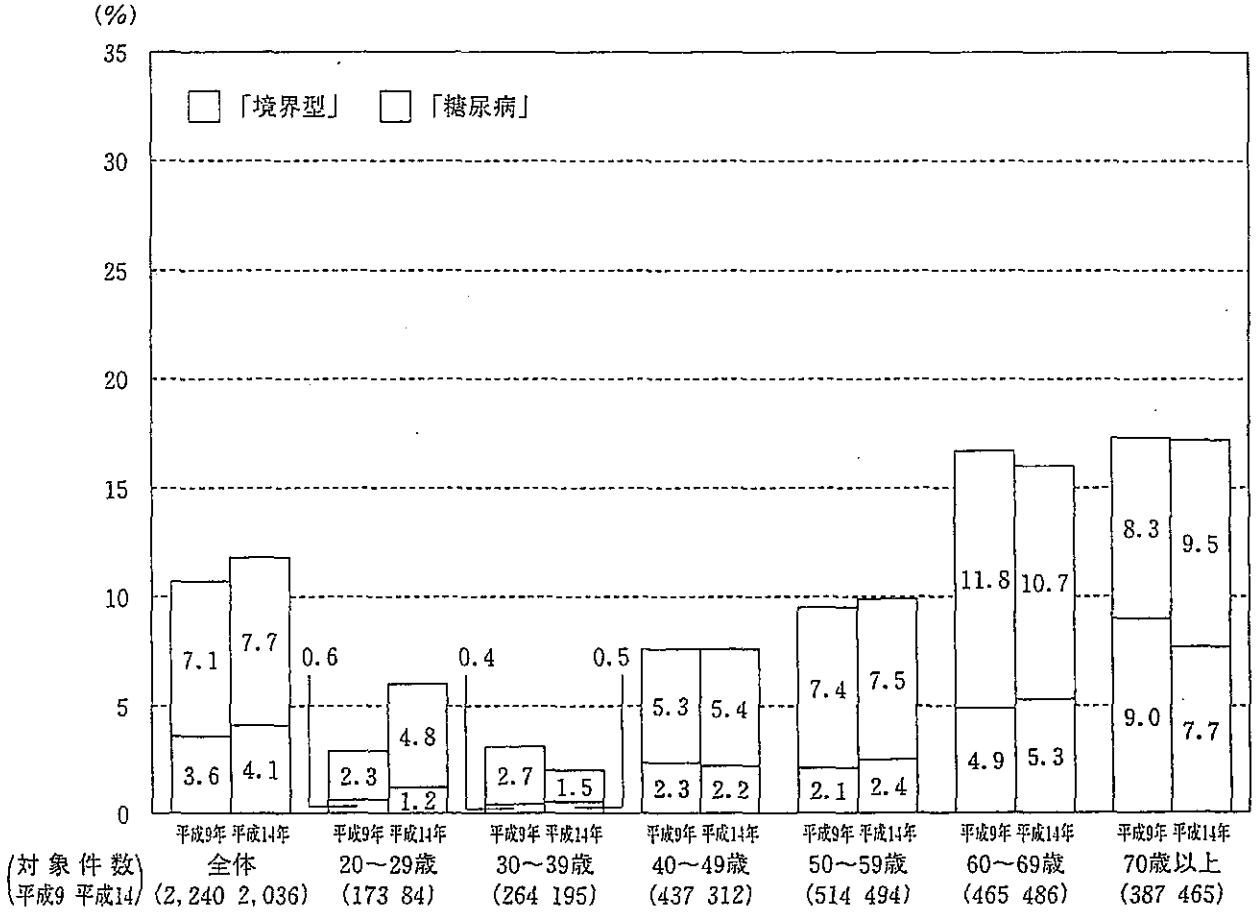


図14－2　糖尿病の検査において異常を指摘された人の割合（前回の調査との比較）―女性―



5－4．糖尿病の検査受診後の保健指導

「糖尿病の検査で「糖尿病」または「境界型」と言われたことがある」と答えた人のうち、糖尿病の検査の受診後に保健指導を受けたかどうかの状況については図15に示すとおりである。男性の74.2%、女性の75.0%は、糖尿病の検査の受診後に何らかの保健指導を受けていた。

また、保健指導の内容は図16に示すとおりである。検査の結果で「糖尿病」と指摘された人のうち、「医療機関を受診するように言われた」（以下「受診勧奨」という。）と答えた人は約7割、「糖尿病教室を受けた」（以下「糖尿病教室受講」という。）と答えた人は約5割であった。検査の結果で「境界型」と指摘された人のうち、「受診勧奨」と答えた人は約4割、「糖尿病教室受講」と答えた人は約2割、「保健指導を何も受けていない」と答えた人は約4割であった。

一方、糖尿病の検査で「異常を指摘された人」のうち、「保健指導を何も受けていない」と答えた人は25.5%であった。

図15　糖尿病の検査で異常を指摘された後に保健指導を受けた人の割合

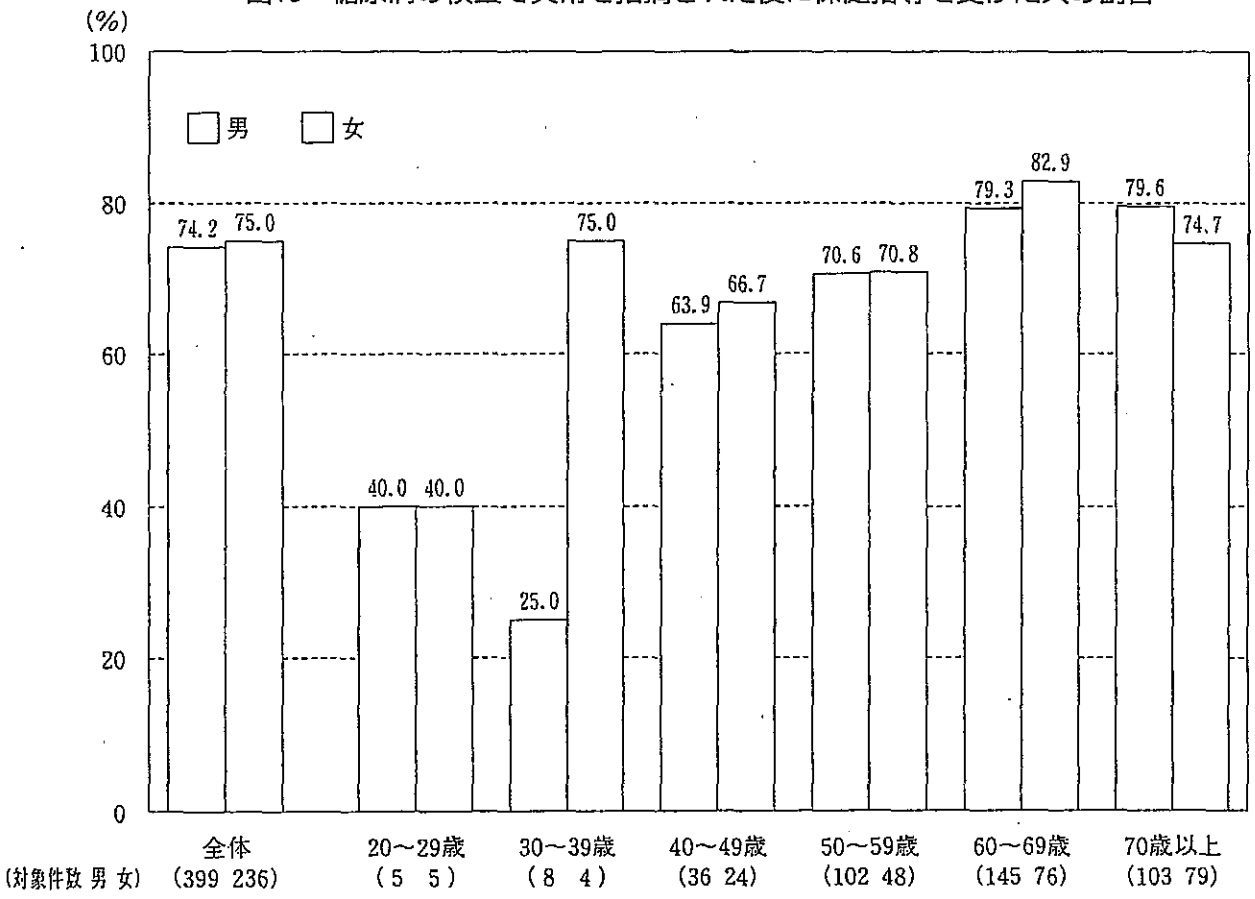
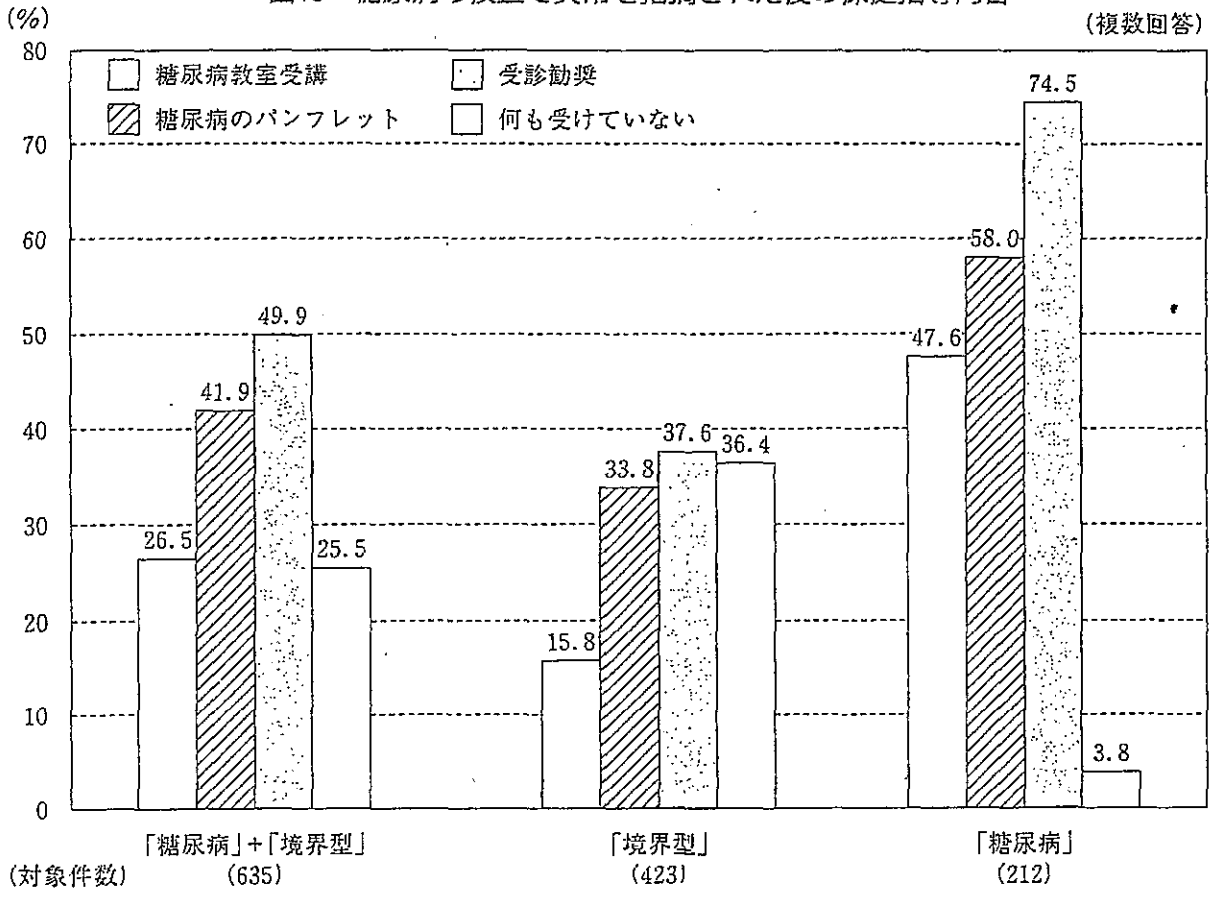


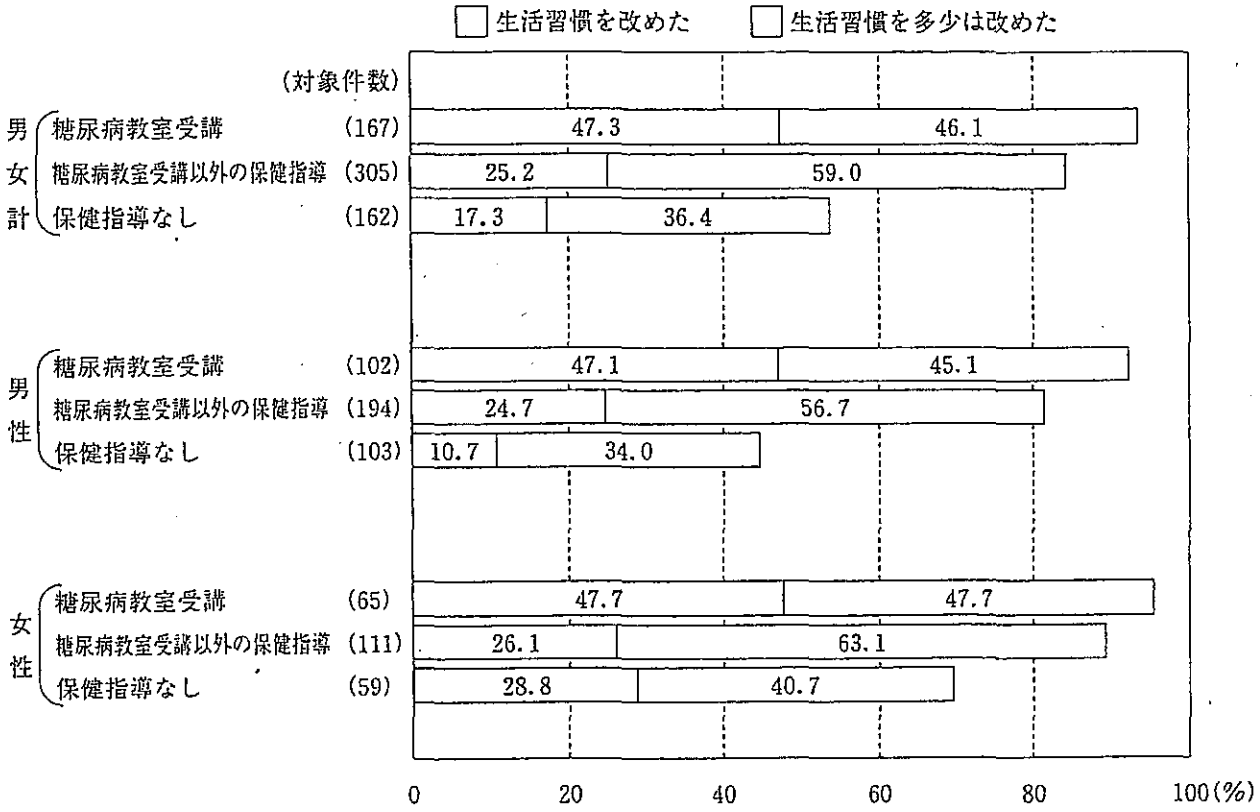
図16　糖尿病の検査で異常を指摘された後の保健指導内容



5－5．糖尿病の検査受診後の保健指導と生活習慣の改善状況

「糖尿病の検査で「糖尿病」または「境界型」と言われたことがある」と答えた人のうち、糖尿病の検査受診後の保健指導の内容別、生活習慣の改善状況は図17に示すとおりである。男女ともに、「糖尿病教室受講」と答えた人は、「糖尿病教室受講」と答えなかった人と比較して「食事や運動などの生活習慣を改めた」と答えた人の割合が高かった。

図17　糖尿病の検査後の保健指導内容別、生活習慣を改善した人の割合

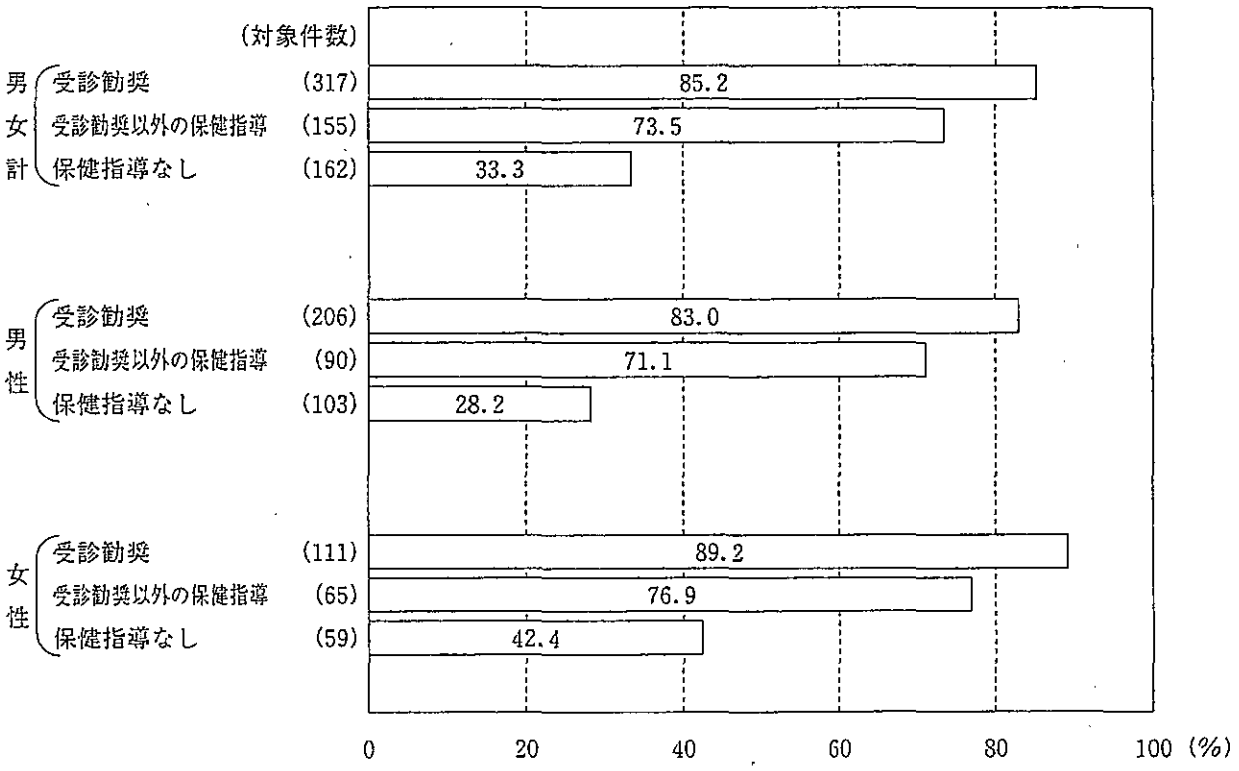


注）「糖尿病教室受講以外の保健指導」とは、糖尿病教室を受講せず、受診勧奨やパンフレットによる保健指導を受けた場合を指す。

5－6．糖尿病の検査受診後の保健指導と医療機関への受診状況

「糖尿病の検査で「糖尿病」または「境界型」と言われたことがある」と答えた人のうち、糖尿病の検査受診後の保健指導の内容別、医療機関への受診状況は図18に示すとおりである。男女ともに、「受診勧奨」と答えた人は、「受診勧奨」と答えなかった人と比較して「医療機関を受診した」と答えた人の割合が高かった。

図18　糖尿病の検査後の保健指導内容別、医療機関受診者の割合

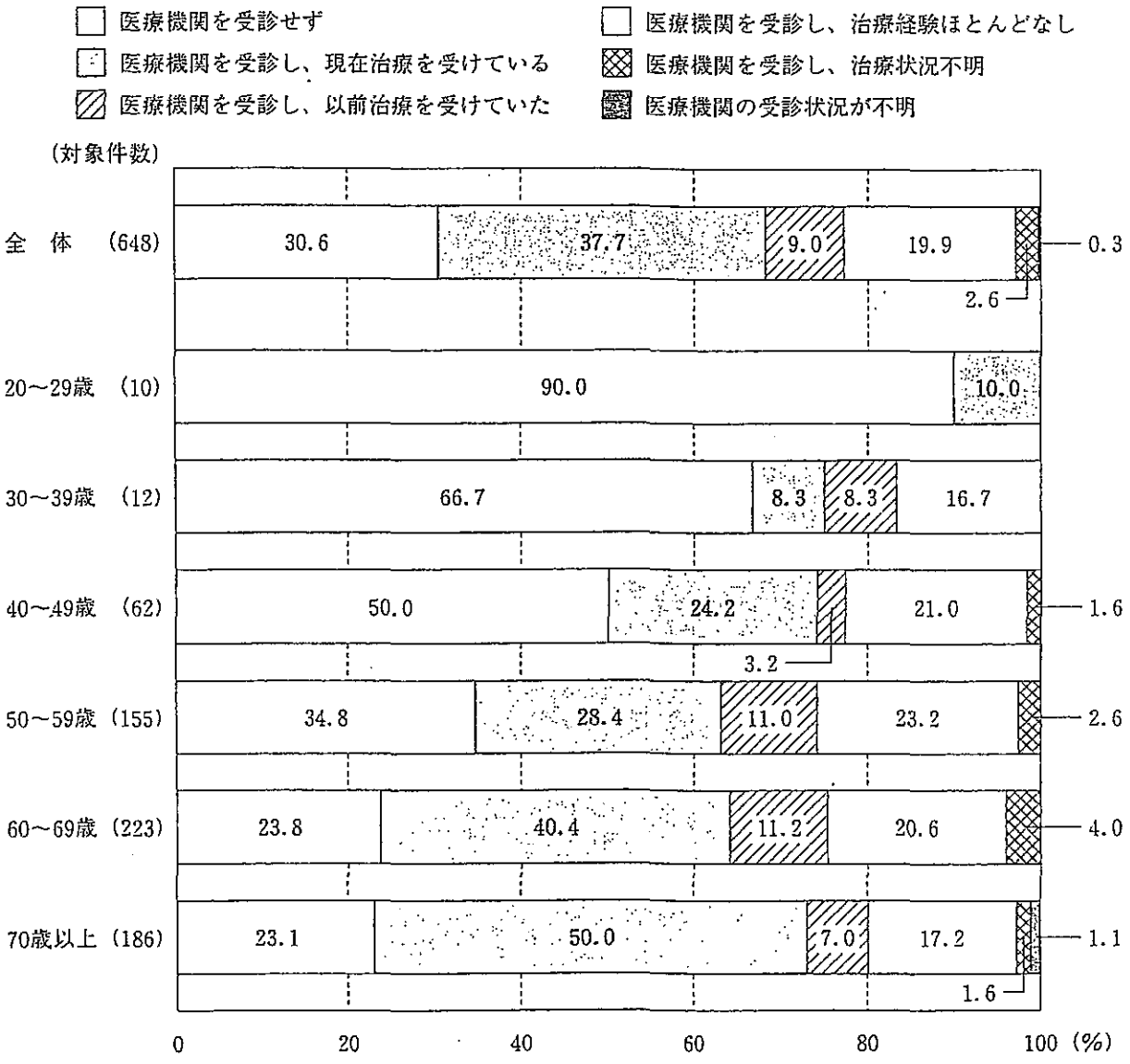


注)「受診勧奨以外の保健指導」とは、受診勧奨を受けず、糖尿病教室の受講やパンフレットによる保健指導を受けた場合を指す。

5－7．糖尿病の検査で異常を指摘された後の医療機関への受診状況と治療状況

「糖尿病の検査で「糖尿病」または「境界型」と言われたことがある」と答えた人のうち、その後の医療機関への受診と治療の状況は図19に示すとおりである。糖尿病の検査受診後に「医療機関を受診しなかった」と答えた人は約３割、「医療機関を受診し、現在治療を受けている」と答えた人は約４割、「医療機関を受診し、ほとんど治療を受けたことがない」と答えた人は約２割であった。

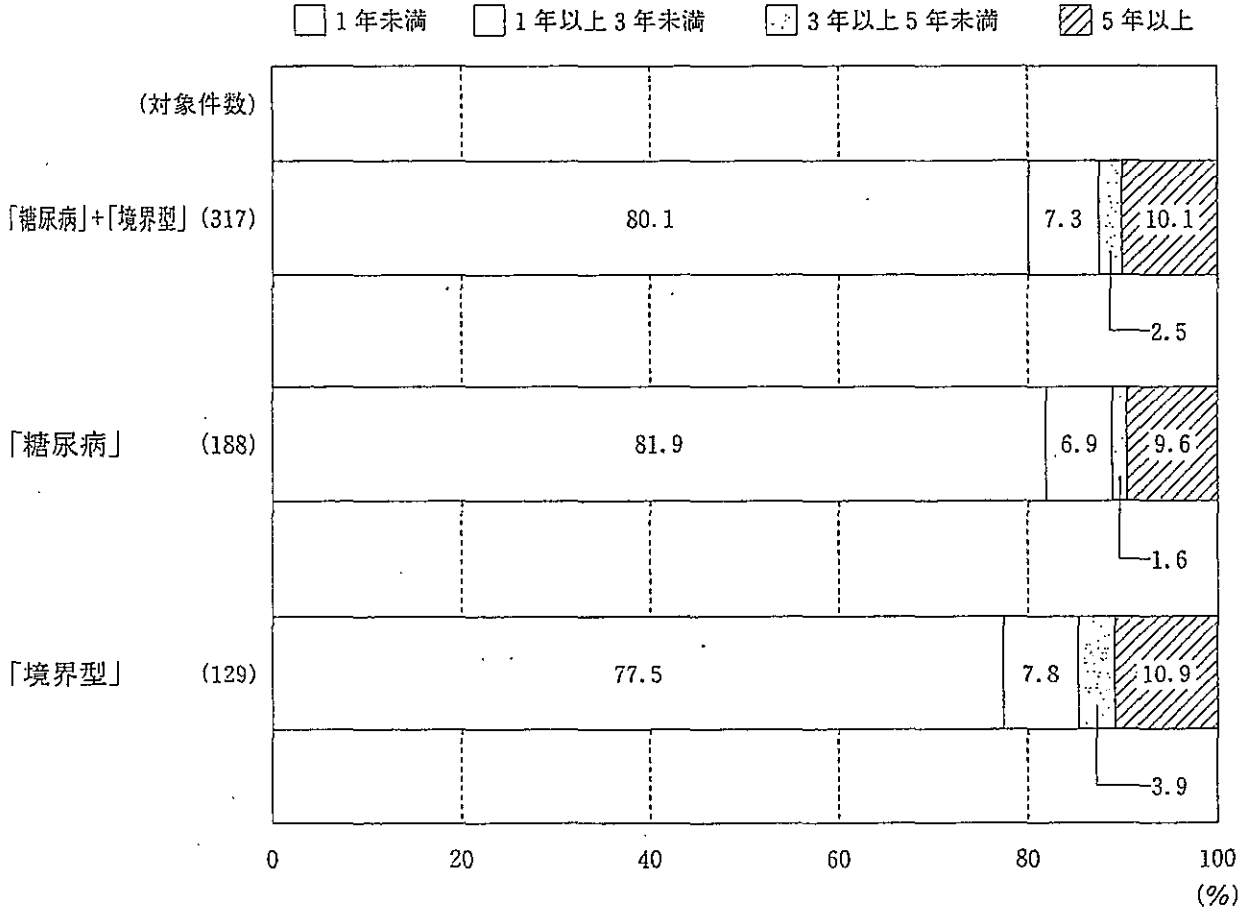
図19　「糖尿病の検査で異常を指摘された人」における、その後の医療機関への受診状況と治療状況



5－8．糖尿病の検査で異常を指摘されてから、初めて治療を開始するまでの期間

「糖尿病の検査で「糖尿病」または「境界型」と言われたことがある」と答えた人のうち、異常を指摘された時から治療を初めて開始するまでの期間は図20に示すとおりである。糖尿病の検査で異常を指摘されてから1年未満で治療を初めて開始した人は80.1%であった。一方、異常を指摘されてから5年以上経過してから初めて治療を開始した人は10.1%であった。

図20　糖尿病の検査で異常を指摘されてから、初めて治療を開始するまでの期間



6．糖尿病に関する医療サービス

今回の調査の解析対象者5,792人が回答した質問票の中で、糖尿病に関する医療サービスの状況について尋ねた結果をまとめた（図21）。「これまでに医師から糖尿病と言われたことがある」には、「境界型である」、「糖尿病の気がある」、「糖尿病になりかけている」、「血糖値が高い」等のように言われた人も含まれている。

図21　糖尿病に関する医療サービスの状況

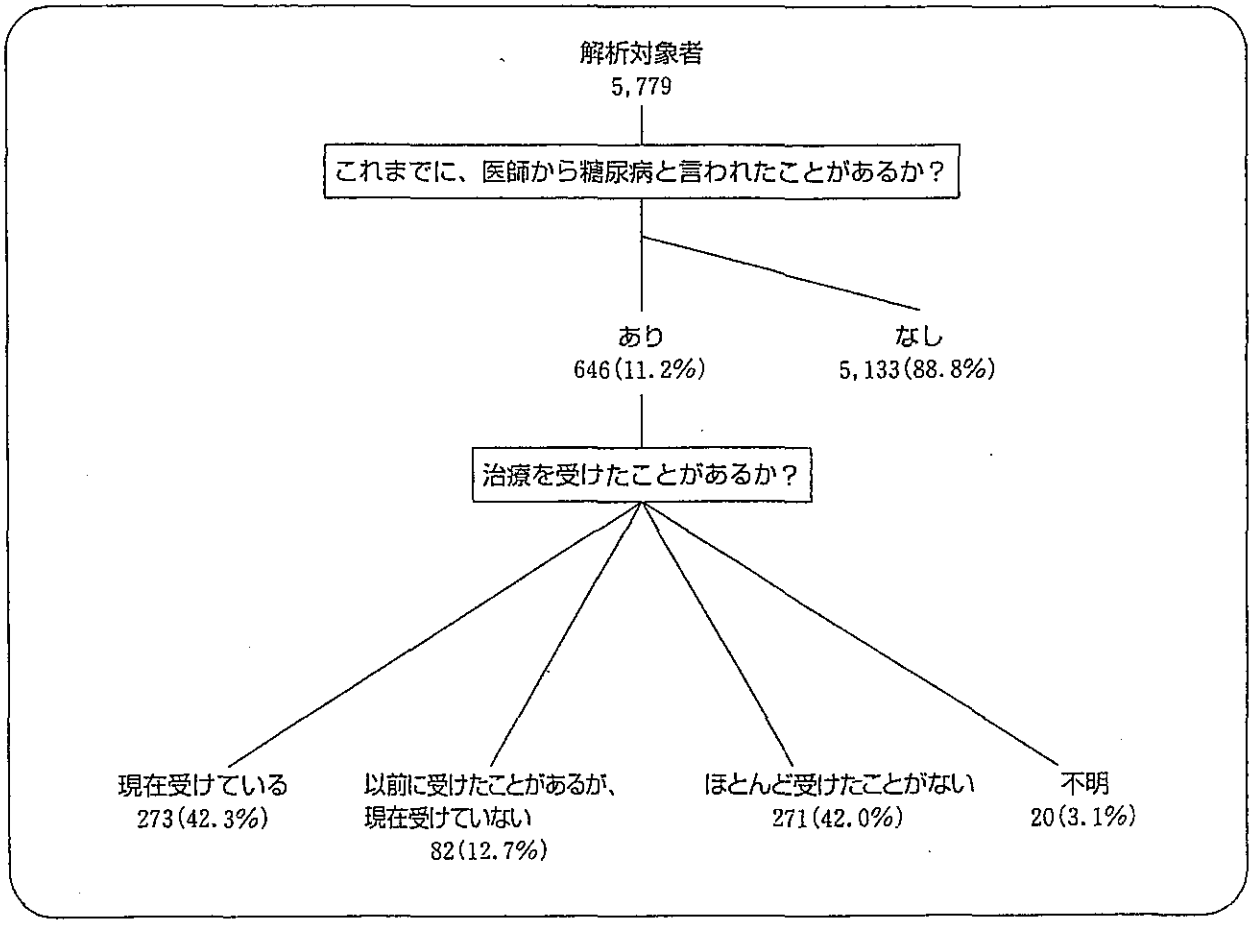


図６－１　糖尿病の予防や治療に関する情報源(医療機関等) ―男性―

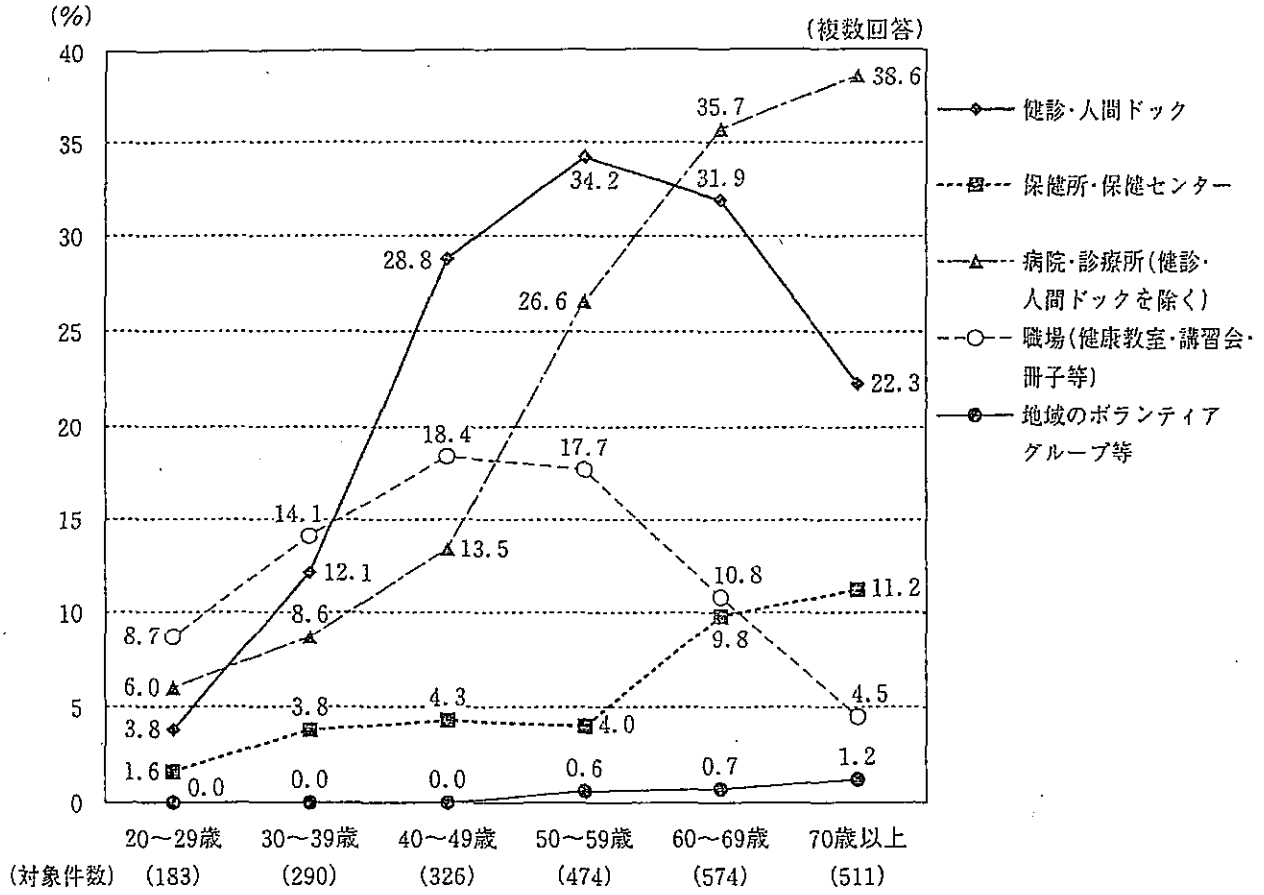
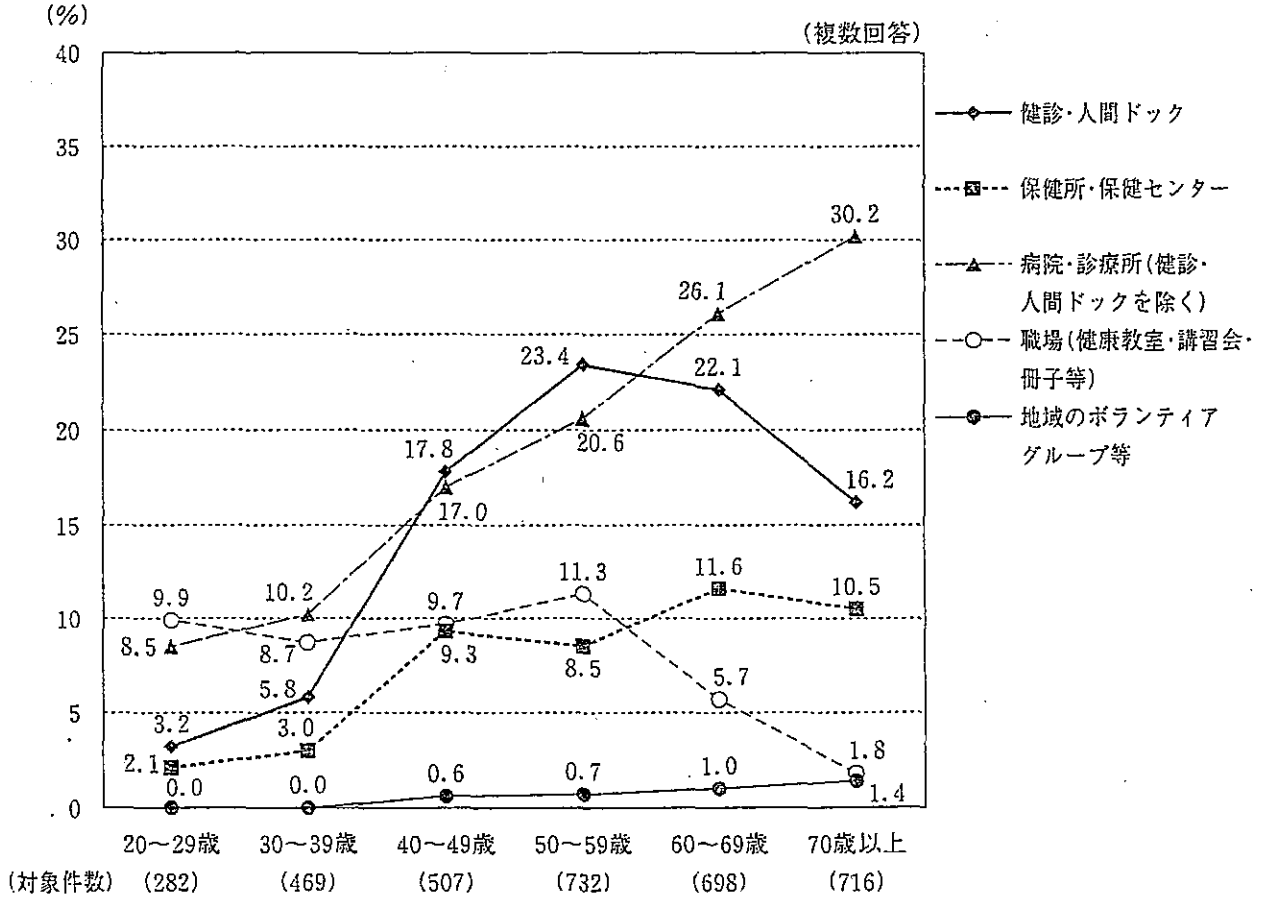


図６－２　糖尿病の予防や治療に関する情報源(医療機関等) ―女性―



6－1．医師から糖尿病と言われた人の状況

「これまでに医師から糖尿病と言われた人」の状況は図22に示すとおりである。「医師から糖尿病と言われたことがある」と答えた人は男性で17.1%、女性で7.1%であり、いずれの年齢階級においても男性の割合が女性の割合よりも高かった。前回の調査の結果と比較すると、「医師から糖尿病と言われたことがある」と答えた人の割合が男性の50歳以上を中心として高くなっていた（図23）。

図22　医師から糖尿病と言われた人の割合

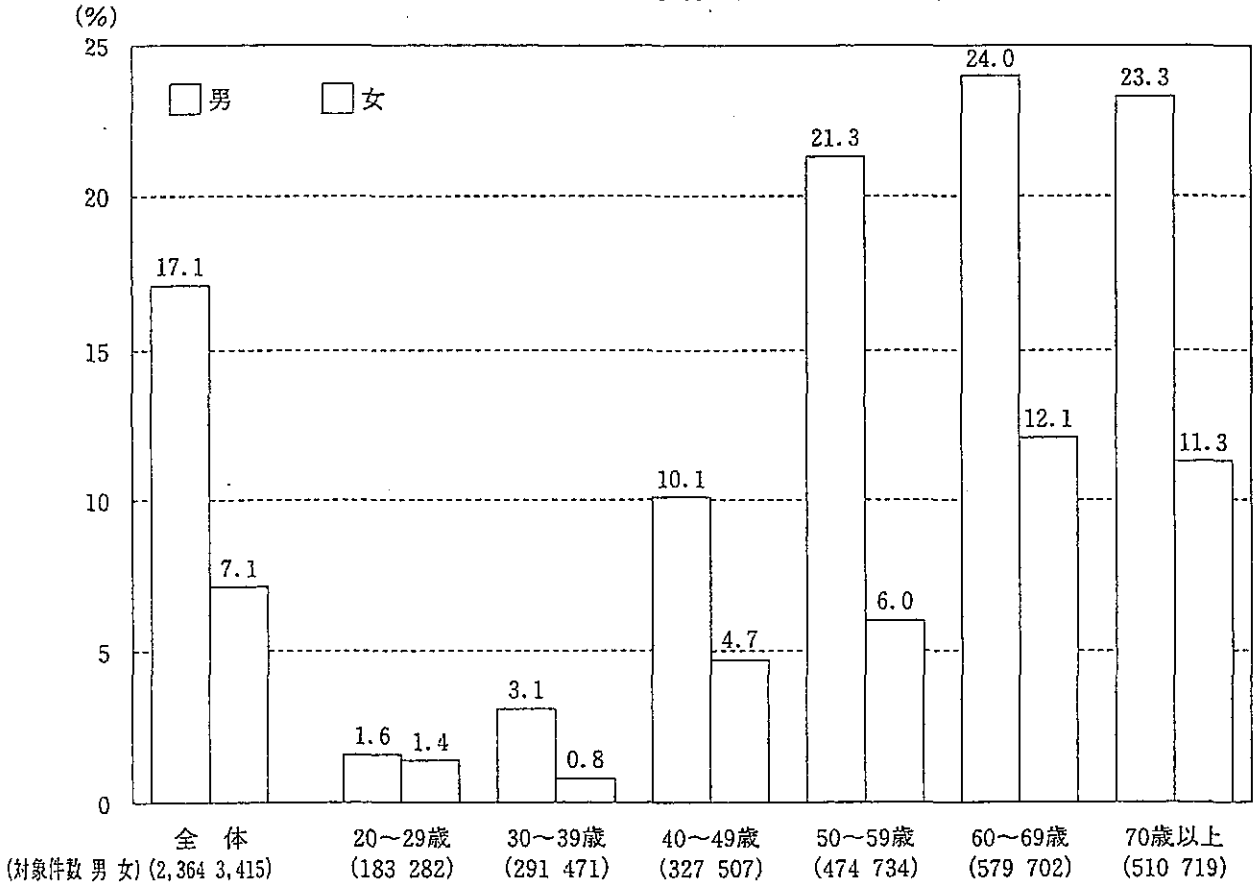


図23－1　医師から糖尿病と言われた人の割合（前回の調査との比較）―男性―

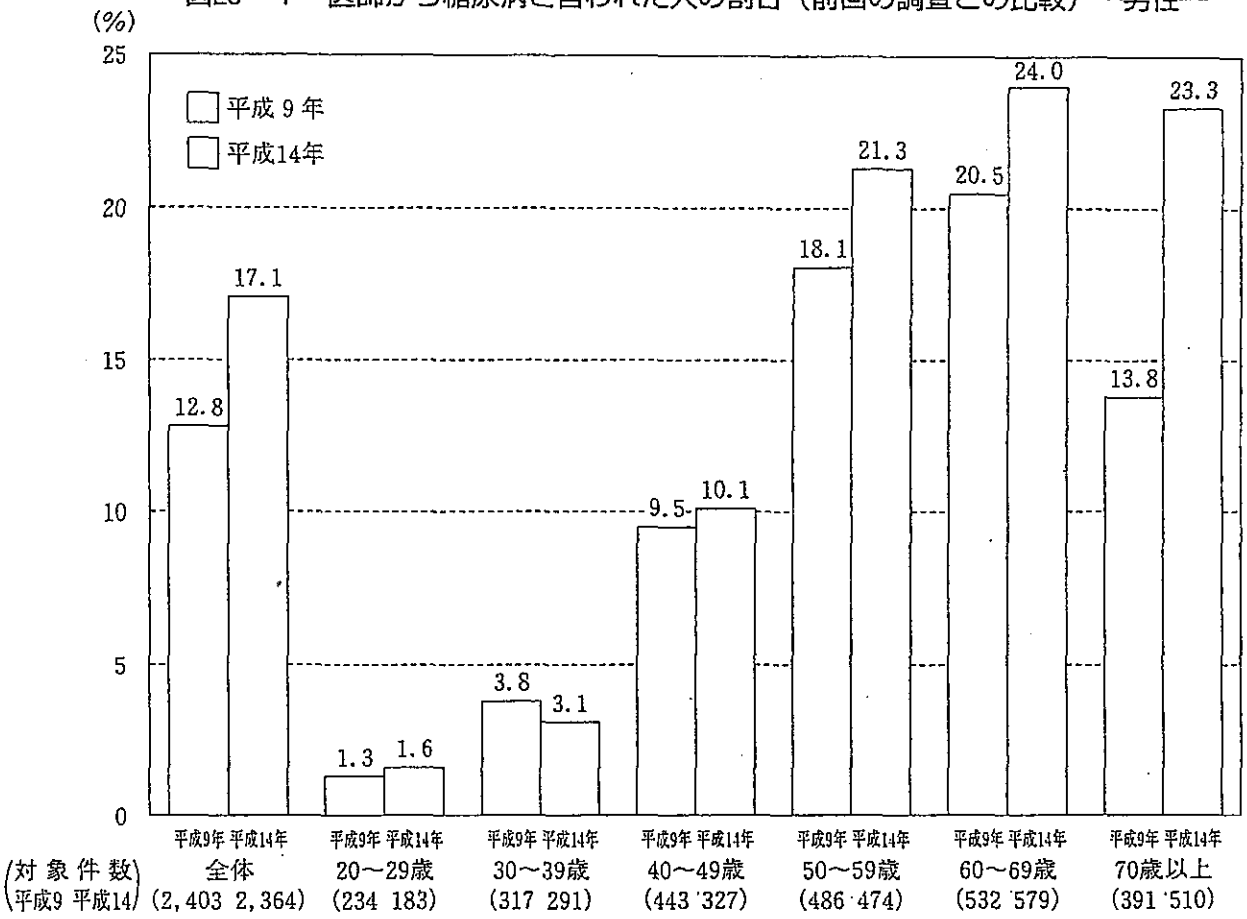
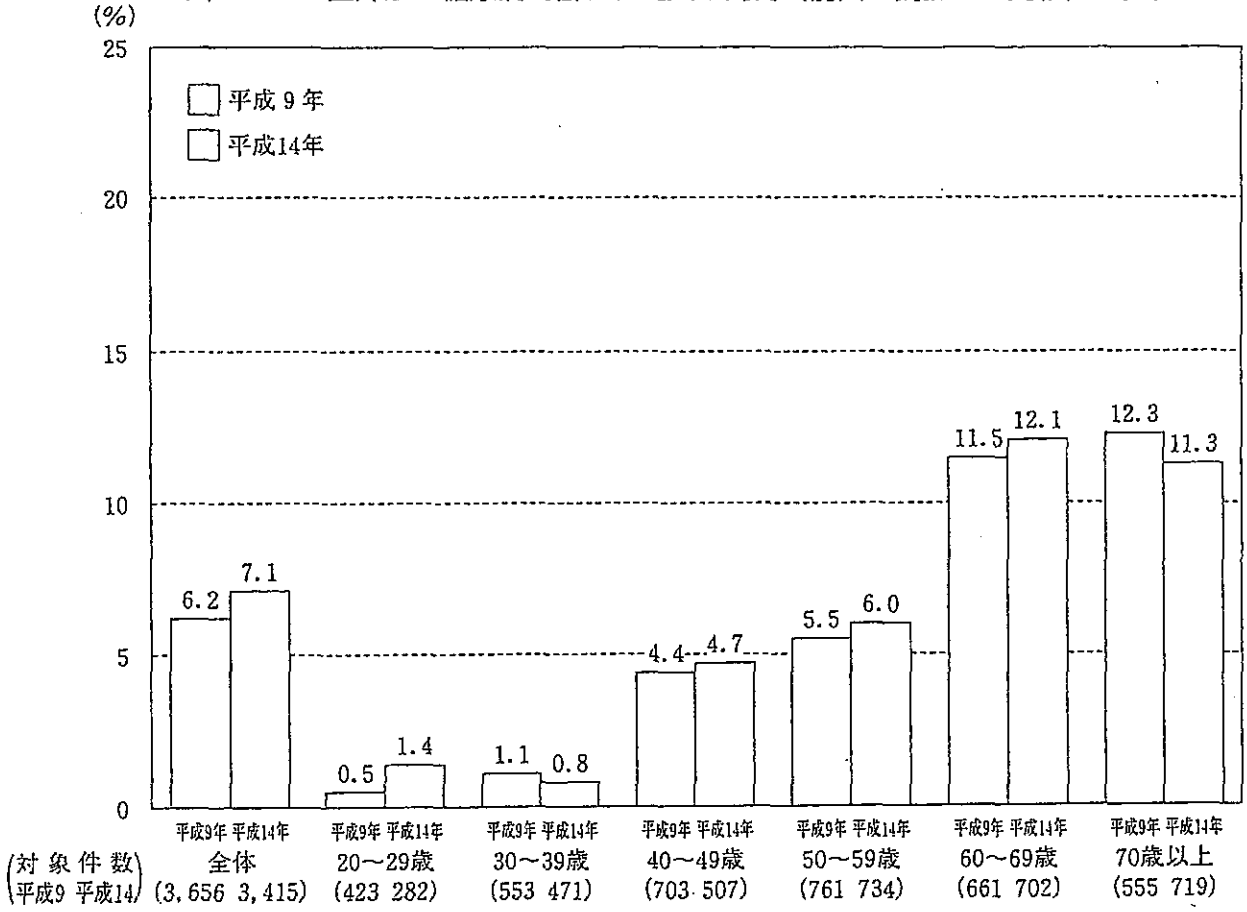


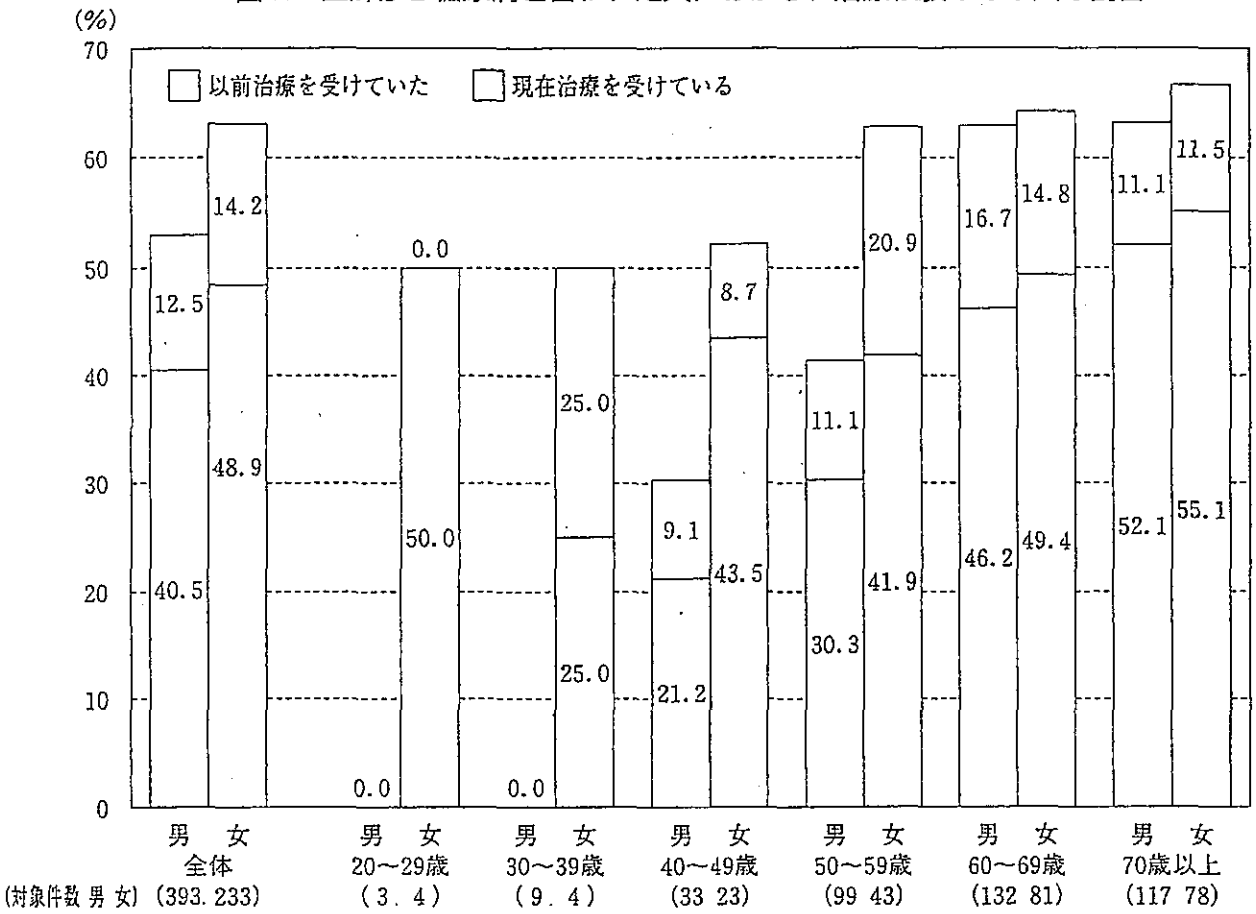
図23－2　医師から糖尿病と言われた人の割合（前回の調査との比較）―女性―



6－2．医師から糖尿病と言われた人の治療状況

「これまでに医師から糖尿病と言われたことがある」と答えた人における治療状況は図24に示すとおりである。「現在治療を受けている」と答えた人は、男性で40.5%、女性で48.9%であった。

図24　医師から糖尿病と言われた人における、治療経験のある人の割合



6－3．医師から糖尿病と言われた人の治療内容

「これまでに医師から糖尿病と言われたことがある」と答えた人における治療内容（複数回答）は表7に示すとおりである。治療内容は、「食事指導」の割合が73.5%で最も高く、次に「飲み薬」60.3%であった。「現在治療を受けている」と答えた人における治療内容の割合は、それぞれ「飲み薬」71.8%、「食事指導」71.1%、「運動指導」47.6%、「インスリン注射」11.4%であった。

表7　糖尿病の治療状況別、治療内容

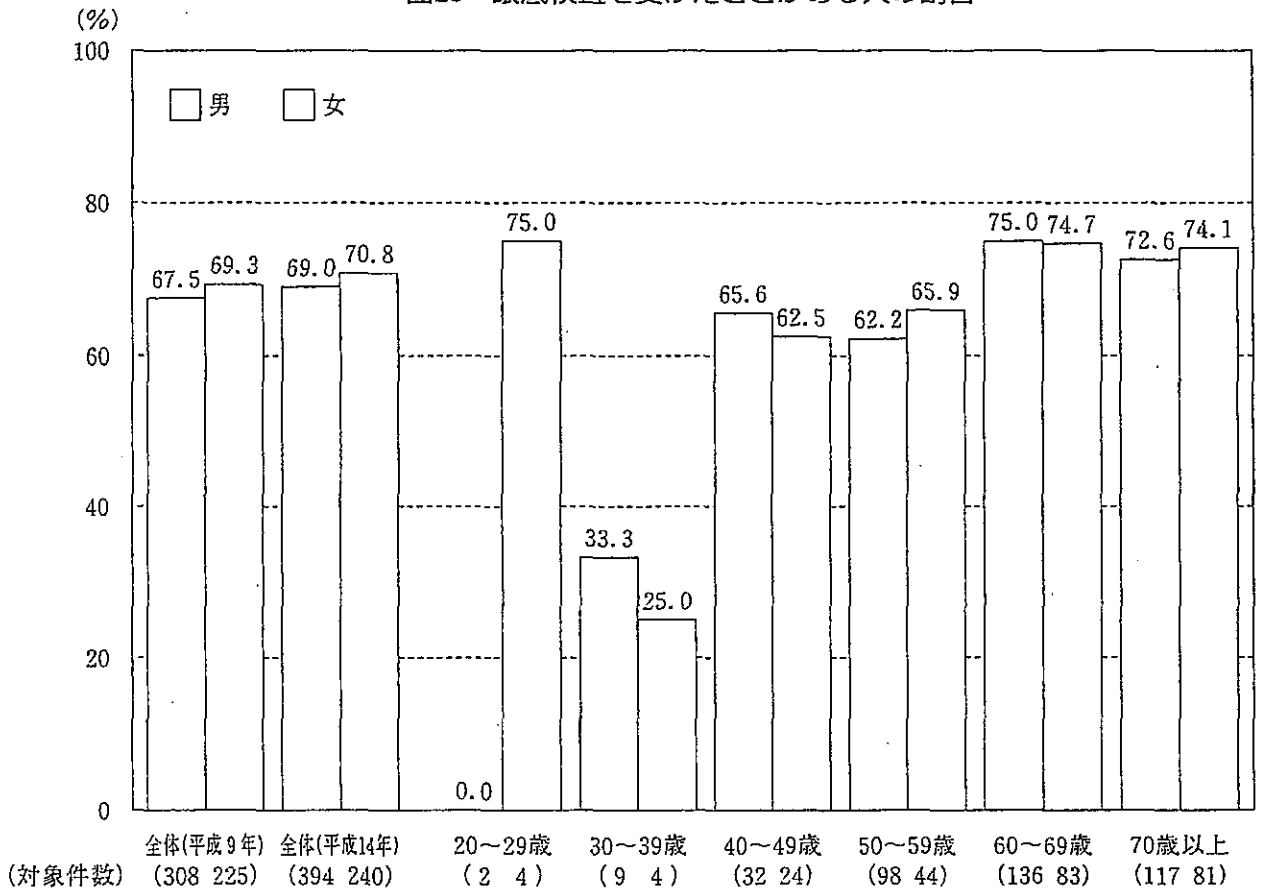
（複数回答）

		食事指導	運動指導	飲み薬	インスリン注射	その他
治療経験者全体（355件）	%	73.5	45.9	60.3	9.3	2.8
	件数	261	163	214	33	10
現在治療を受けている（273件）	%	71.1	47.6	71.8	11.4	1.8
	件数	194	130	196	31	5
以前治療を受けていた（82件）	%	81.7	40.2	22.0	2.4	6.1
	件数	67	33	18	2	5

6－4．糖尿病診療における眼底検査の状況

眼底検査の受診状況は図25に示すとおりである。「これまでに医師から糖尿病と言われたことがある」と答えた人において、「眼底検査（眼の奥を調べる検査）を受けたことがある」と答えた人は男性で69.0%、女性で70.8%であった。

図25　眼底検査を受けたことがある人の割合



注：年齢階級別のデータは平成14年のもの

7．糖尿病の合併症および併発症

7－1．糖尿病の状況別、糖尿病合併症の状況

「糖尿病の合併症である、神経障害、網膜症、腎症、足壊疽を合併している」と答えた人の割合を、「糖尿病が強く疑われる人」、「糖尿病の可能性を否定できない人」、「今回の調査で正常範囲の人」の3つのグループで比較した結果は図26、表8に示すとおりである。「神経障害にかかっている」、「腎症にかかっている」と答えた人の割合は、「糖尿病が強く疑われる人」の40歳以上で高くなっていた。また、「網膜症にかかっている」と答えた人の割合は、「糖尿病が強く疑われる人」の60歳以上で高くなっていた。

図26－1　糖尿病合併症があると答えた人の割合―神経障害―

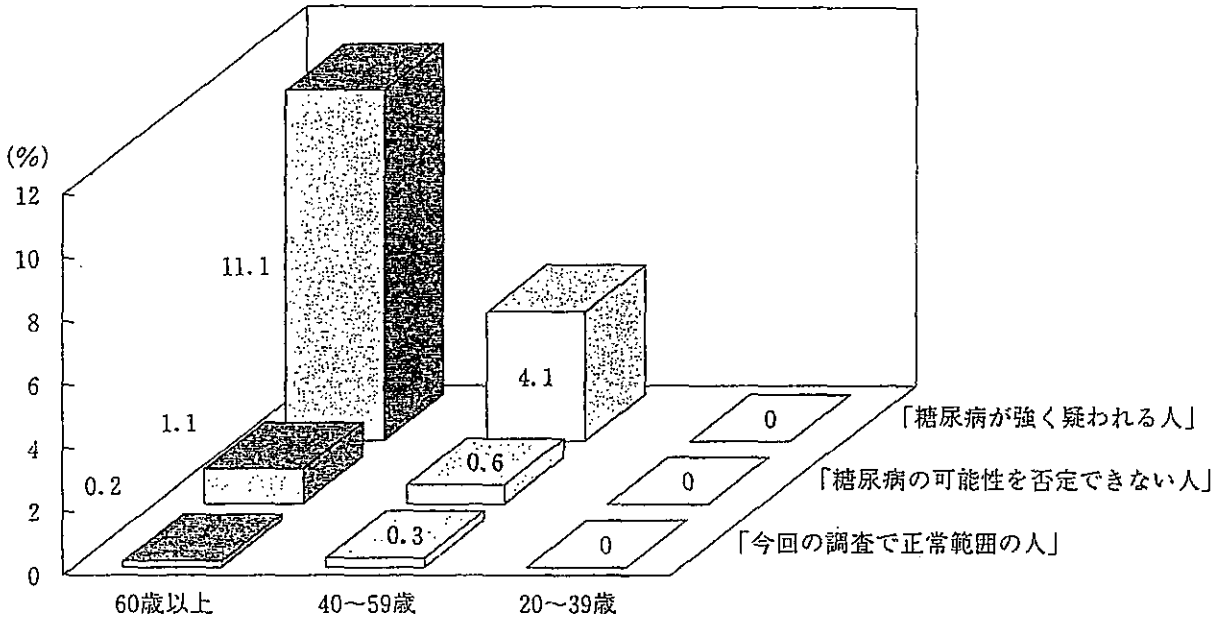


表8－1　糖尿病合併症があると答えた人の割合―神経障害―

		20～39歳	40～59歳	60歳以上
糖尿病が強く疑われる人 (482件)	人数(%)	0 (0)	5 (4.1)	39 (11.1)
	対象件数	8	122	352
糖尿病の可能性を否定できない人 (566件)	人数(%)	0 (0)	1 (0.6)	4 (1.1)
	対象件数	31	169	366
今回の調査で正常範囲の人 (4,298件)	人数(%)	0 (0)	5 (0.3)	4 (0.2)
	対象件数	1,072	1,599	1,627

図26－2　糖尿病合併症があると答えた人の割合―網膜症―

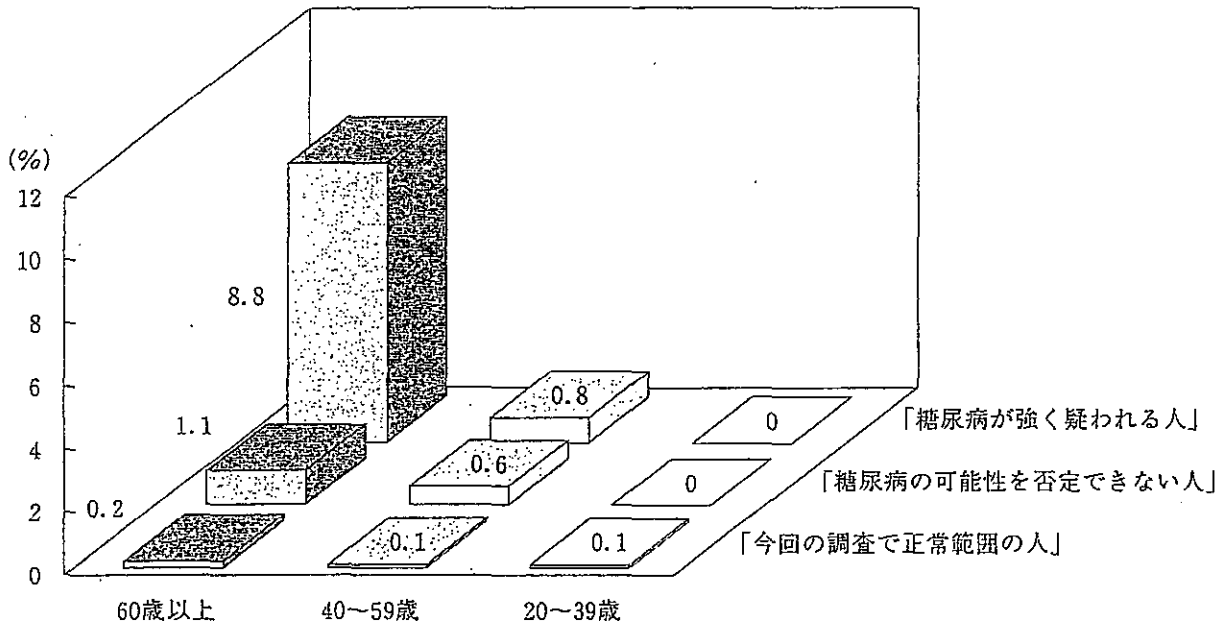


表８－２　糖尿病合併症があると答えた人の割合―網膜症―

		20～39歳	40～59歳	60歳以上
糖尿病が強く疑われる人 (482件)	人数(%)	0 (0)	1 (0.8)	31(8.8)
	対象件数	8	122	352
糖尿病の可能性を否定できない人 (566件)	人数(%)	0 (0)	1 (0.6)	4 (1.1)
	対象件数	31	169	366
今回の調査で正常範囲の人 (4,298件)	人数(%)	1 (0.1)	1 (0.1)	4 (0.2)
	対象件数	1,072	1,599	1,627

図26－3　糖尿病合併症があると答えた人の割合―腎症―

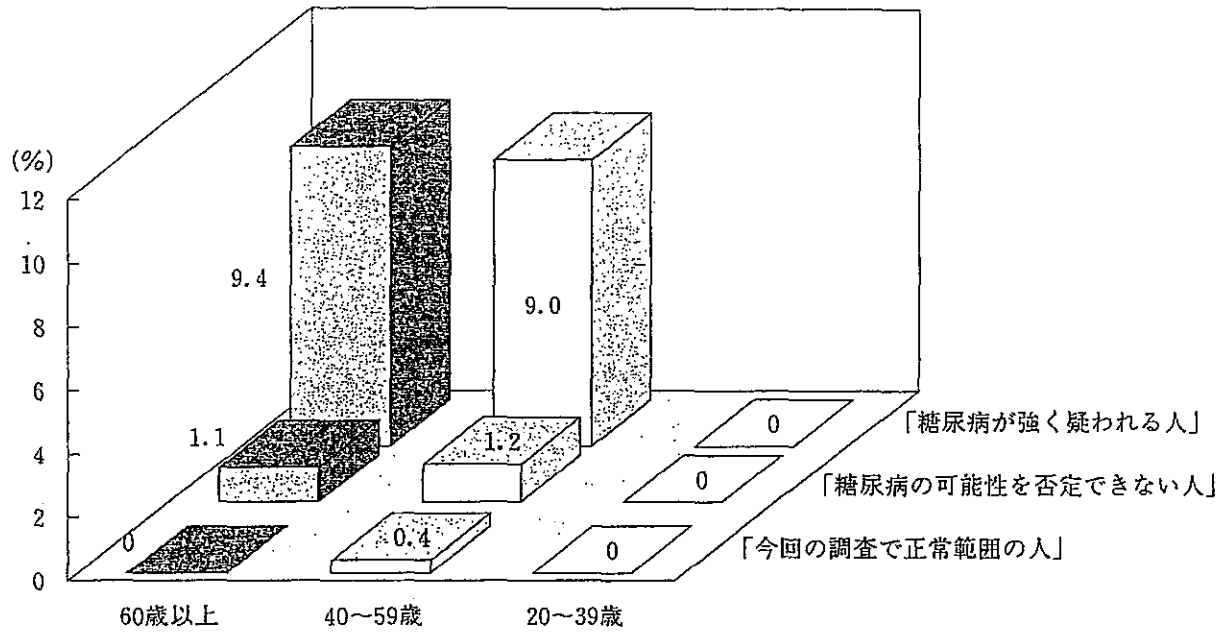


表8－3　糖尿病合併症があると答えた人の割合―腎症―

		20～39歳	40～59歳	60歳以上
糖尿病が強く疑われる人 (482件)	人数(%)	0 (0)	11(9.0)	33(9.4)
	対象件数	8	122	352
糖尿病の可能性を否定できない人 (566件)	人数(%)	0 (0)	2 (1.2)	4 (1.1)
	対象件数	31	169	366
今回の調査で正常範囲の人 (4,298件)	人数(%)	0 (0)	7 (0.4)	0 (0)
	対象件数	1,072	1,599	1,627

7－2．糖尿病の状況別、心臓病、脳卒中の状況

糖尿病は心臓病や脳血管障害の危険因子として知られている。「医師から、心臓病（狭心症、心筋梗塞等）、にかかっていると言われたり、治療を受けたことがある」または「医師から、脳卒中（脳出血、脳梗塞等）にかかっていると言われたり、治療を受けたことがある」と答えた人の割合を、「糖尿病が強く疑われる人」、「糖尿病の可能性を否定できない人」、「今回の調査で正常範囲の人」の３つのグループで比較した結果は図27、表９に示すとおりである。「心臓病にかかっていると言われたり、治療を受けたことがある」と答えた人および「脳卒中にかかっていると言われたり、治療を受けたことがある」と答えた人の割合は、60歳以上の「糖尿病が強く疑われる人」においてのみ他のグループより高かった。

図27－１　心臓病の既往があると答えた人の割合

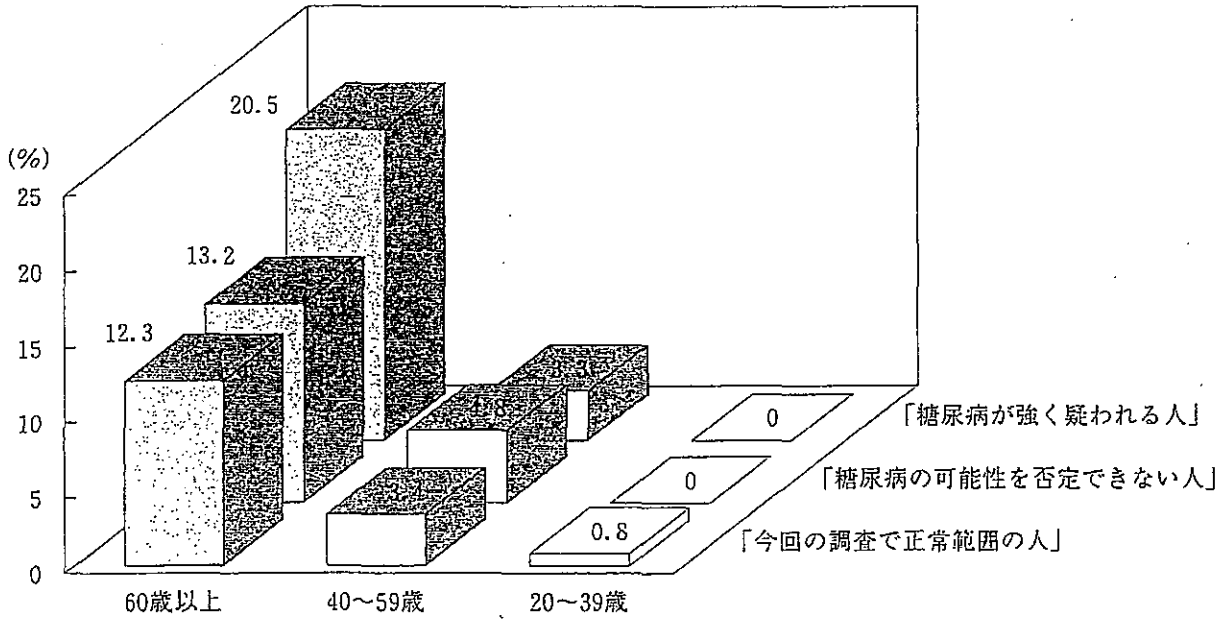


表９－１　心臓病の既往があると答えた人の割合

		20～39歳	40～59歳	60歳以上
糖尿病が強く疑われる人（480件）	人数(%)	0（0）	4（3.3）	72(20.5)
	対象件数	8	121	351
糖尿病の可能性を否定できない人（562件）	人数(%)	0（0）	8（4.8）	48(13.2)
	対象件数	31	168	363
今回の調査で正常範囲の人（4,282件）	人数(%)	9（0.8）	55(3.4)	198(12.3)
	対象件数	1,072	1,596	1,614

図27－2　脳卒中の既往があると答えた人の割合

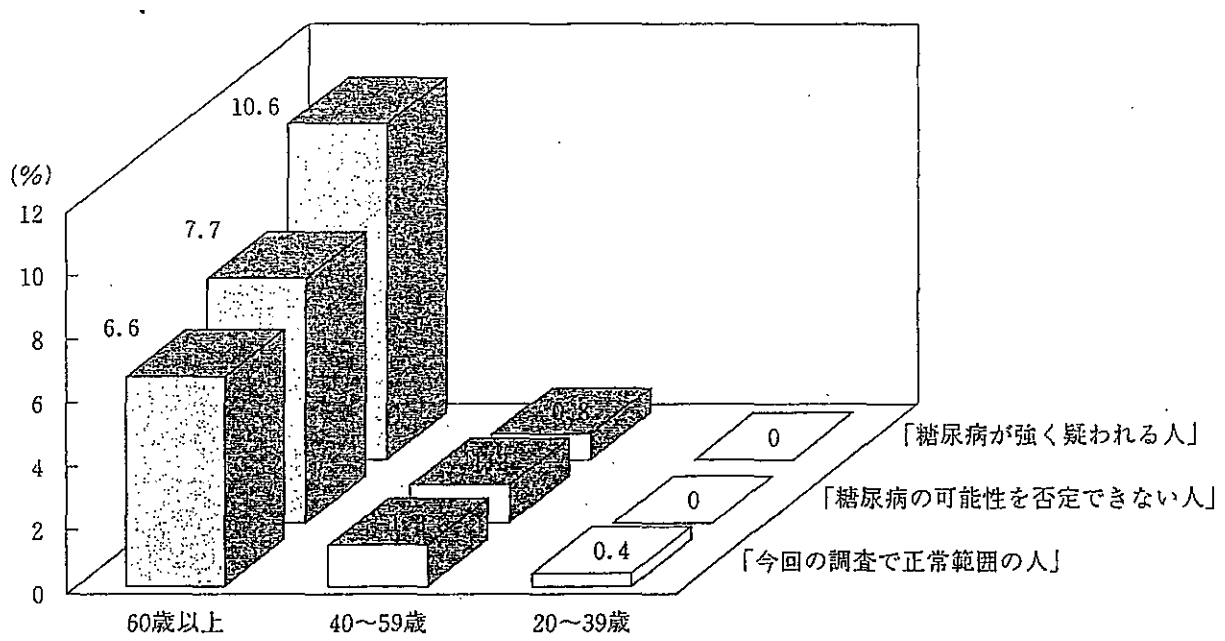


表９－２　脳卒中の既往があると答えた人の割合

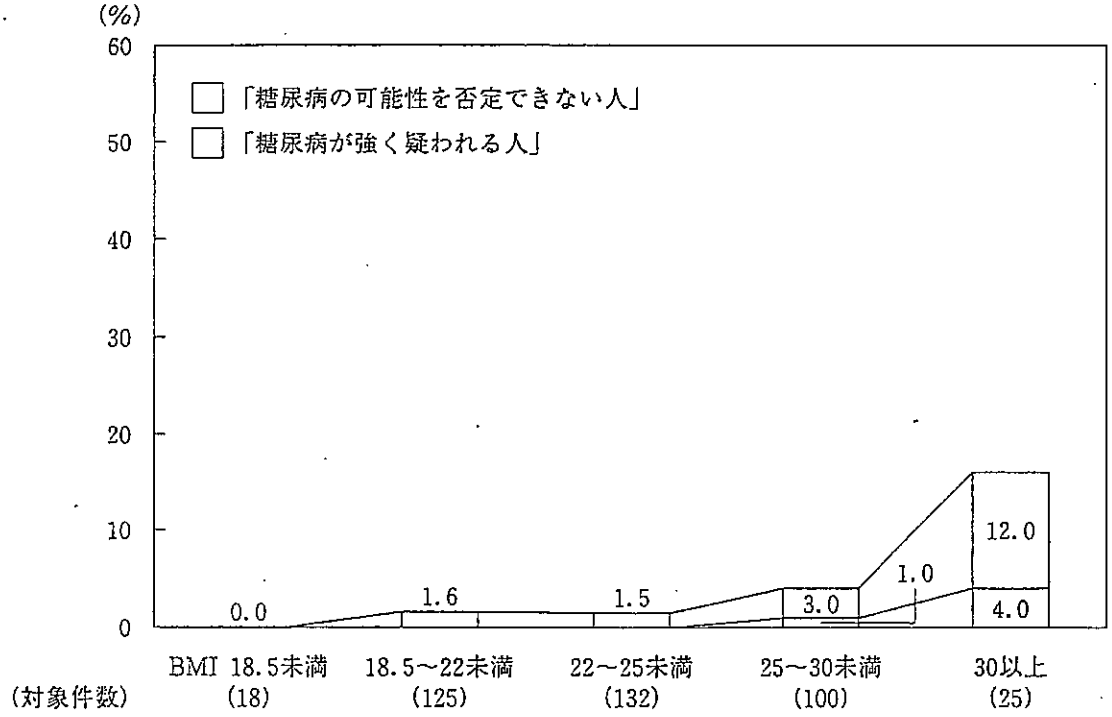
		20～39歳	40～59歳	60歳以上
糖尿病が強く疑われる人 (479件)	人数(%)	0 (0)	1 (0.8)	37(10.6)
	対象件数	8	121	350
糖尿病の可能性を否定できない人 (561件)	人数(%)	0 (0)	2 (1.2)	28(7.7)
	対象件数	31	168	362
今回の調査で正常範囲の人 (4,277件)	人数(%)	4 (0.4)	20(1.3)	107(6.6)
	対象件数	1,072	1,593	1,612

8．糖尿病に関連する危険因子や生活習慣

8－1．現在の肥満度別、糖尿病の状況

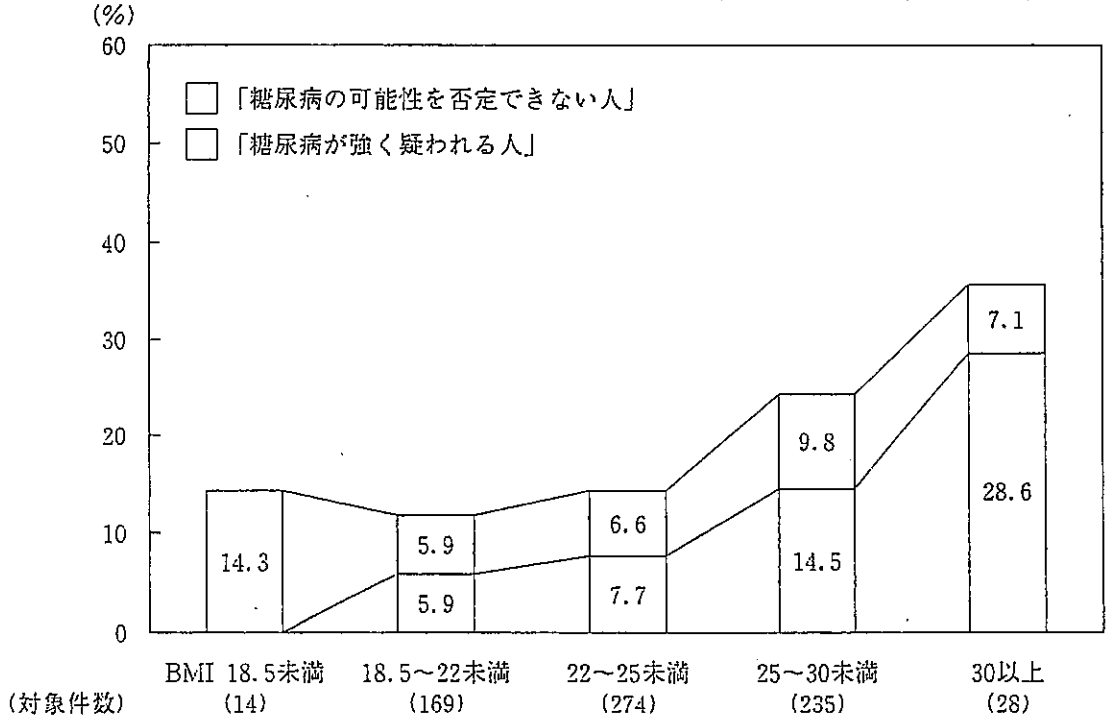
現在の肥満度と糖尿病の状況の関係については図28、図29に示すとおりである。BMIの値が25以上の人はBMIの値が18.5以上25未満の人と比較して、男性の60歳以上を除き、男女ともに「糖尿病が強く疑われる人」の割合が高く、男性および40歳以上の女性において「糖尿病の可能性を否定できない人」の割合が高かった。

図28－1　現在の肥満度別、糖尿病有病者の割合―男性(20～39歳)―



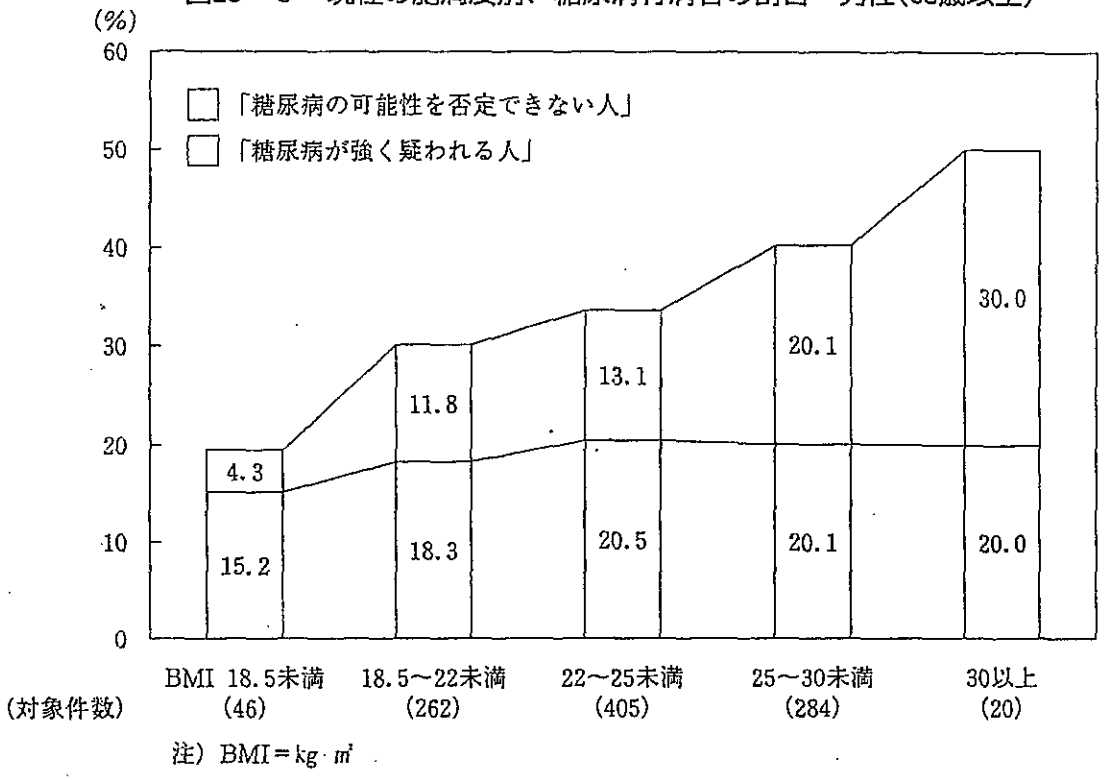
注）BMI＝kg ㎡

図28－2　現在の肥満度別、糖尿病有病者の割合―男性(40～59歳)―



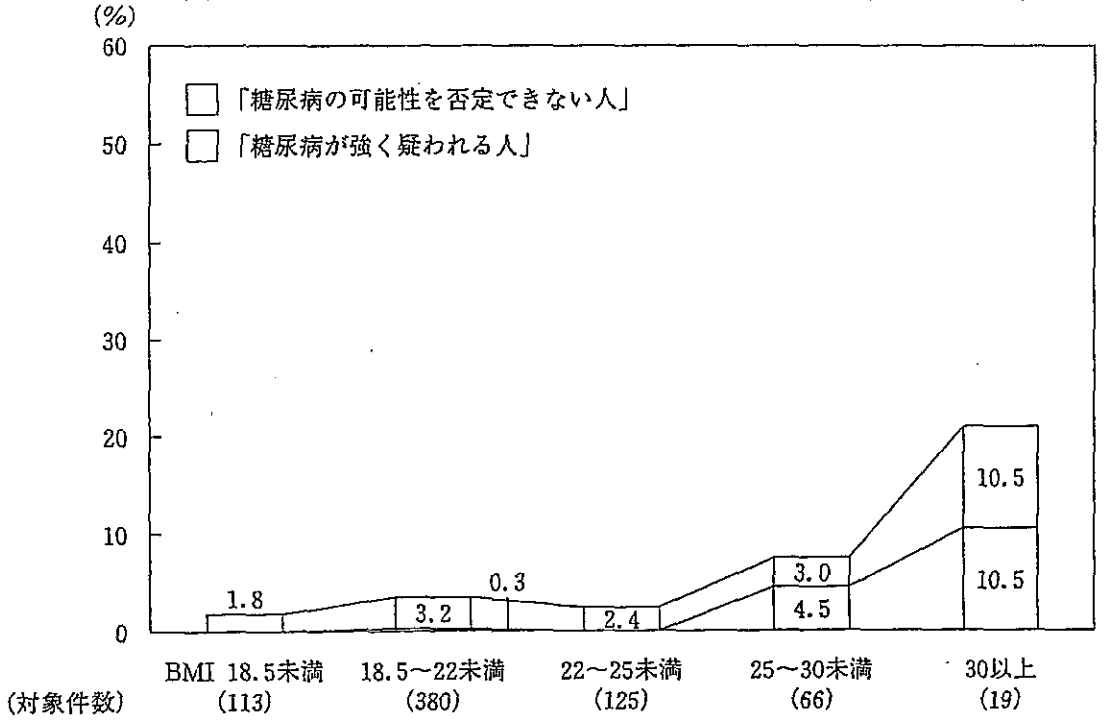
注）BMI＝kg ㎡

図28－3　現在の肥満度別、糖尿病有病者の割合―男性(60歳以上)―



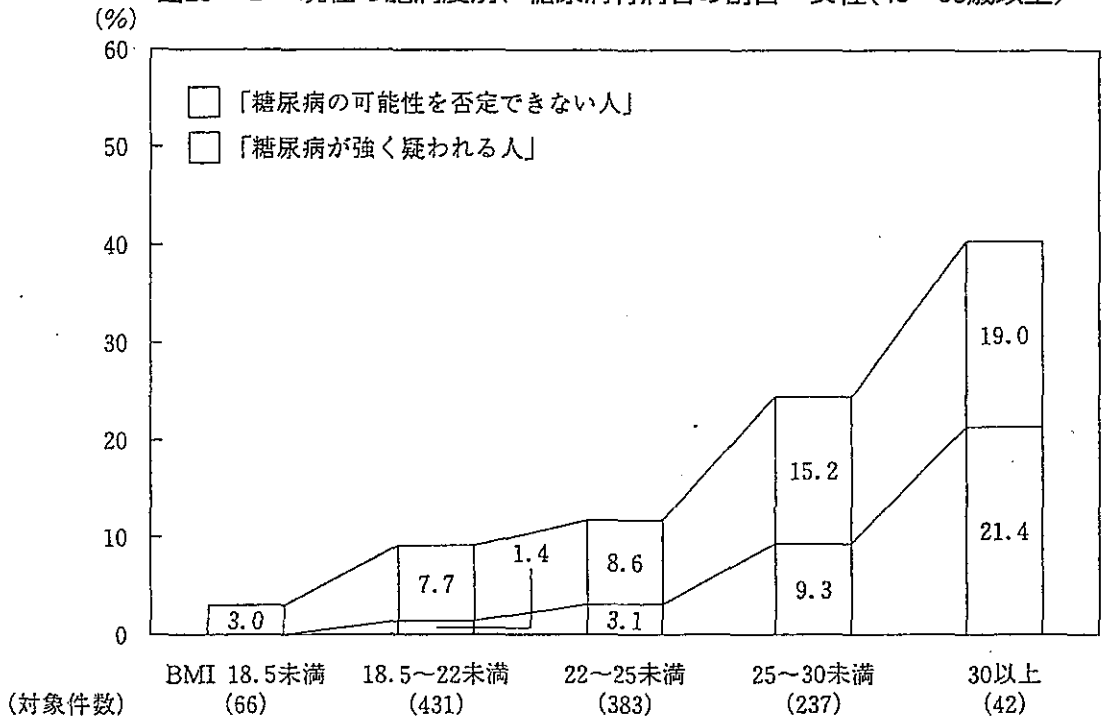
注）BMI＝kg・m²

図29－1　現在の肥満度別、糖尿病有病者の割合―女性(20～39歳)―



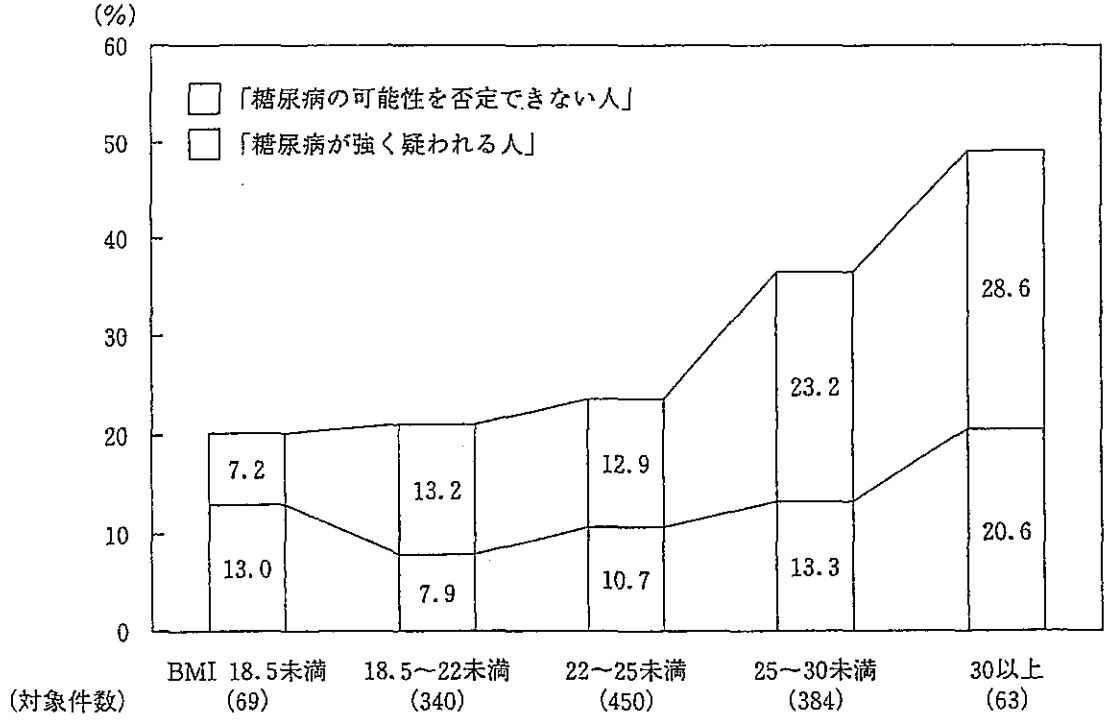
注）BMI＝kg. m²

図29－2　現在の肥満度別、糖尿病有病者の割合―女性(40～59歳以上)―



注) BMI＝kg/m²

図29－3　現在の肥満度別、糖尿病有病者の割合―女性(60歳以上)―



注) BMI＝kg/m²